令和2年9月10日(木曜日)

(会議第3日目)

応招議員

1番	小永正裕	2番	矢野依伸	3番	山本久夫
4番	山崎正男	5番	浅野修一	6番	吉尾昌樹
7番	濱村美香	8番	矢野昭三	9番	宮地葉子
10番	澳本哲也	11番	宮川徳光	12番	池内弘道
13番	中島一郎	14番	小松孝年		

不応招議員

なし

出席議員

応招議員に同じ

欠席議員

なし

地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

町長職務代理者	松田春喜	総務課長	宮川茂俊
情報防災課長	徳廣誠司	企画調整室長	西村康浩
健康福祉課長	佐田幸	住民課長	川村一秋
まちづくり課長	金子伸	農業振興課長	川村雅志
地域住民課長	青木浩明	産業推進室長	門田政史
建設課長	森田貞男	海洋森林課長	土居雄人
教育長	畦地和也	会計管理者	小橋智恵美
教育次長	橋田麻紀	教育次長	藤本浩之

本会議に職務のため出席した者

議会事務局長 小橋和彦

書記 山崎あゆみ

令和2年9月第11回黒潮町議会定例会

議事日程第3号

令和2年9月10日 9時00分 開議

日程第1 陳情第16号

(委員長報告・委員長報告に対する質疑・討論・採決)

日程第2 一般質問

議 事 の 経 過

令和2年9月10日
午前9時00分 開会

議長（小松孝年君）

おはようございます。

これから、本日の会議を開きます。

これより、日程に従い会議を進めますので、よろしくお願ひ致します。

日程第1、陳情第16号、妊産婦医療費助成制度創設を求める陳情書についてを議題とします。

なお、陳情第15号は審査未了に、陳情第17号から19号までは継続審査となりましたので、ご報告致します。

これから、委員長報告を行います。

陳情第16号について、委員長の報告を求めます。

産業建設厚生常任委員長、澳本哲也君。

産業建設厚生常任委員長（澳本哲也君）

それでは、当委員会に付託されました陳情第16号、妊産婦医療費助成制度創設を求める陳情書について、委員会において審査したことについて報告を致します。

現在、妊産婦の健診等、充実をしていると思いますが、結婚、出産の高年齢化などにより、さまざまなハイリスク出産が大きな問題となっております。

当町においても、安心し安全な妊娠、そして出産の確立は絶対的に必要なものだと思います。

妊娠し出産、子育てと、より一層切れ目のない子育て支援として、妊産婦医療費助成制度創設が必要に思います。

なお、意見書につきましては、事前にお配りしております妊産婦医療費助成制度創設を求める意見書として、高知県知事に提出を求めることになっております。

当委員会として採決をした結果、採択することに決しました。

以上です。

議長（小松孝年君）

これで、委員長の報告を終わります。

これから、委員長の報告に対する質疑を行います。

質疑はありませんか。

（なしの声あり）

質疑なしと認めます。

これで、産業建設厚生常任委員長の報告に対する質疑を終わります。

これから、討論を行います。

初めに、反対討論はありませんか。

（なしの声あり）

次に、賛成討論はありませんか。

濱村君。

7番（濱村美香君）

陳情第 16 号、妊産婦医療費助成制度創設を求める陳情書について、賛成の立場から討論致します。

この陳情は、安心安全な妊娠、出産を確立し、少子化対策充実のために高知県知事にあてて提出するものです。

今から 27 年前、22 歳のときでした。妊娠が分かると同時に切迫流産と診断され、出産まで仕事を休業することになりました。出産前には切迫早産となり、40 日間入院となり寝たきりの状態でした。その後は、無事に出産することができました。

当時は、1 回の健診に 5,000 円から 1 万円必要でした。入院には 1 日 5,000 円ほど掛かりました。そして休業中の社会保険料等、毎月 2 万円支払い、若い私たち夫婦にとっては経済的負担が大きかったことを思い出しました。

現在は、妊婦健診の補助も 14 回分、産休、育休中の支払いが免除されるなど、幾分かは助けられていると思います。しかし、手に取るところの所得が当時と比べて格段にアップしているとは言えず、妊産婦の経済的負担が軽減しているとは思えません。

妊婦の状況も近年では高年齢化し、妊娠中のトラブルやリスクも多くなっていると予測されます。金銭的なことを心配せずに、安心して妊娠、出産をし、ゆとりある子育てに向けて取り組める町に、私の実体験からもそう願わずにはられません。

以上のような理由から、この陳情に賛成致します。

議長（小松孝年君）

反対討論はありませんか。

（なしの声あり）

賛成討論はありませんか。

（なしの声あり）

討論なしと認めます。

これで、討論を終わります。

これから、採決を行います。

念のために申し上げます。この採決は賛成の方の挙手を求め、挙手されない方については反対と見なしますので、ご了承願います。

陳情第 16 号、妊産婦医療費助成制度創設を求める陳情書についてを採決します。

本件に対する委員長の報告は採択です。

本件は、委員長の報告のとおり採択することに賛成の方は挙手願います。

挙手多数です。

従って、陳情第 16 号は、委員長の報告のとおり採択することに決定しました。

これで、採決を終わります。

日程第 2、一般質問を行います。

順次発言を許します。

質問者、山本久夫君。

3 番（山本久夫君）

おはようございます。

それでは、質問させていただきます。

今議会は課長、町長が欠けていますので、職務代理者ということになってます。職務代理者については、

一般質問する上で、政策とか政治的な判断というのはなかなか厳しいので、そういうことはなかなか質問ができないというような規制がちょっとありまして、その意味を踏まえてですね、今年度既決されている、既に予算の中で一番町民の、ほんとに身近な地域整備事業について伺いたいと思います。

この地域整備事業については、各部落からかなりの多岐にわたって数多くの要望が挙がっていると思います。その要望の内容について大まかで構いませんので、まあ大まかな項目を挙げていただいて、それで全体的な件数と。

それと、予算が増額になってます。そういうことに対しての対応と。

そしてまた、今までの、この5、6カ月くらいですか、進捗（しんちよく）状況を取りあえず一回お聞きしたいと思います。

よろしくお願いします。

議長（小松孝年君）

総務課長。

総務課長（宮川茂俊君）

おはようございます。

それでは、山本議員の一般質問の1のカッコの1、地域整備事業につきましてお答えを致します。

まず、ご質問の要望事業の内訳についてお答えさせていただきます。

平成29年度からの過去3年間の要望件数を先にお答えを致します。

平成29年度527件、平成30年度538件、令和元年度は505件となっており、本年度は529件の地域要望が挙がっております。

内訳につきましては、本年度分しか集計ができておりませんが、地域から要望があった529件のうち、道路関係が242件、河川、水路関係の事業の要望が82件、道路、河川以外の要望が205件となっております。

次に、執行状況につきましてお答えを致します。

平成29年度からの過去3年間の執行額につきましては、予算額3,000万円に対しまして、平成29年度の執行額は3,008万7,000円余り、平成30年度は2,997万2,000円余り、また、昨年度の令和元年度につきましては、令和元年度の決算書の185ページのとおり、工事請負費として2,969万1,348円の執行額、および、16節原材料費に地域整備事業原材料費として30万円を流用して活用することで、合計2,999万1,000円余りの執行額となっており、通年、予算額である3,000万円のほぼ全額を執行している状況となっております。

また、今年度につきましては地域からの要望も数多くあることから、議会からのご承認をいただき、予算額を4,500万円に1,500万円を増額しまして、少しでも多くの地域要望に応えることができるよう対応することとしております。

現在、地域整備事業の予算4,500万円のうち、約1,934万円の執行状況となっております。

残りの約2,565万円につきましては、各課で振り分けを行っており、各課で実施予定の箇所もあり、今後、整備を行っていく予定としております。

地域整備事業は、議員からご質問もありましたとおり、地域からの要望に直接対応することができる事業となっておりますため、地域からの要望に基づき、緊急度、事業効果等を勘案しながら事業を実施していき、地域整備に取り組んでいきたいと考えております。

以上でございます。

議長（小松孝年君）

山本君。

3 番（山本久夫君）

どうも、詳しくご説明ありがとうございました。

前年度、前々年度は 100 パーセントに近いくらいの執行ということで、今年が 40 数パーセントくらいになるんですかね。今の状態では、そういうことになってると思うんです。

ただ、年度末に向かって大変皆さんも忙しくなるわけで、その増額もしたわけですので、できるだけ早く執行できるような態勢というか作業をしていただけたらと思うんですが。

その手順としてですね、微々たるもの、60 万を超えるようなやつは、工事については災害に掛からないだろうとかいろんな方法で手当をしてると思うんですが、大体部落要望の要望事項というのは軽微なもので、2、30 万というのがほとんどやないかと思うんですが。

そのときの設計状況というか、発注までの流れとしてですね、その設計はどんな状態でやっているのか。コンサルにまず任すということはまずないと思うんですが、2、30 万ですので。その設計は各担当課でやられているのか。

そのへんだけ、ちょっともう一度お聞かせいただけませんか。

議長（小松孝年君）

総務課長。

総務課長（宮川茂俊君）

山本議員の再質問にお答えします。

地域整備事業につきましては、委託料として予算も構えておりませんので、基本的には各課で、担当が設計をして発注しているという状況になっております。

また、入札等につきましては条例どおり、130 万を超える場合は入札で対応するということになっております。

以上でございます。

議長（小松孝年君）

山本君。

3 番（山本久夫君）

どうもありがとうございます。

各課で設計をされているということですので、道路にしても河川にしても、いろいろと経費も違うところがあります。

それと、間違いなくやってるとは思ってるんですけど、単価の統一なんかをちゃんとしていただいているとは思いますが、そのへん十分。各課も大変忙しいときですから、いろんなことで大変やと思いますけど、とにかく大きな、町道の改良とか高速道路の延伸なんかも大変大事なことです。しかしながら、やっぱり日々の生活で、その小さいことが町民にとっては大きな負担になる場合もございます。

ですからぜひ、年度末に向かっては早期に、まあ調整するということもたくさんあると思うんですが。用地にしる、隣接した方とかいろんな調整事項があるとは思いますが、部落要望、皆さんが少しでも住環境が良くなるために一番大事な事業ではないかと、小さいけど。そういう気がしますので、ぜひ今後、その早期発注、そして、なるだけ皆さんの要望に応じていただけるような対応をしていただけたらと思いますので、今後よろしくお願い致します。

それでは次、2問目いきます。防災対策についてですが。

本来はもうほとんど、津波とか震災のこともありまして、いろいろそういう緊急時の対応とか災害時の対応というのは、出来上がってしまってる状態やと思います。黒潮町においては、

ただ、今回、やっぱり本部長であるトップが欠けてますので、その後、職務代理者が引き継いで行うわけです。世の中いうものは不思議なもので、こういうときにこそいろんなことが起こったりするもので、災害を含めて。

そういうことがちょっと心配でありましたので、一度その対応の対処を一応確認したいと思ひまして、質問させていただきました。

その前に、遅くなりましたが台風10号、先日の。対策本部を立ち上げられて大変、課長をはじめ職員の方、大変ご苦労されたと思います。人的な被害もなく、大きな被害もなく、大変良かったとお疲れさまでした。どうもありがとうございました。

それと、本文に戻りますけど。まず、その初動態勢です。まず、一番最初が。それから、それぞれの流れになっていくと思うんですが。

まず、その災害対策本部を設置する基準。それから立ち上げてからの流れを、少しお聞かせ願ひたいと思います。

議長（小松孝年君）

情報防災課長。

情報防災課長（徳廣誠司君）

おはようございます。

山本議員の、台風等の防災体制についてのご質問にお答えしたいと思います。

台風が発生した場合は、気象庁等の台風の進路を注視しまして、高知気象台の台風説明会や防災支援メールを活用して、態勢を整えるようにしております。

台風や災害の規模、勢力にもよりますが、本町に影響がでると思われる前日には、避難所開設の意思決定や開設準備、地域への処理を行っているところでございます。

台風の影響が出る数時間から1日前には、危機管理の職員で第一配備を取り、避難情報の発令や避難所開設の準備を進めているところでございます。

また、避難情報の発令時間や避難所開設の時間は、安全に避難できる時間帯に開設、発令するよう、早めの対応をしているところでございます。

避難所の開設や避難情報の発令をした際には、第二配備体制を取っております。

さらに厳重な警戒が必要な場合は、全管理職を含む第三配備へ移行します。この際には、災害対策本部を立ち上げることもについても検討を行います。

災害本部を設置しますと町長が本部長になりますが、不在の場合は、副町長が代行するよう定めております。

現在は、副町長、情報防災課長、危機管理担当職員を中心に、早め早めの態勢を整えるよう心掛けております。

なお、大雨警報等が発表された場合は、職員参集システムの自動起動により、対象者には電話、メールが届くようになっており、災害対応配備後は情報収集の上把握をし、担当部局と対策について協議することとなります。

要請の対応については、台風の接近等危険な状況であれば直接の対応はできませんが、対応が可能な状

況であれば、担当部局また消防団等により対応をする態勢を取るようしております。

事象が落ち着きまして現場での活動が可能となりましたら、各地区からの状況や現地調査等により被災箇所等を把握し、災害の復旧に向けて早期に対応しているところでございます。

以上でございます。

議長（小松孝年君）

山本君。

3番（山本久夫君）

しっかりした組織づくりというか、体制づくりができてると思います。それでなおかつ、その上で十分な対応策も講じられているということで安心もしましたが。

その中でですね、先ほども話したように台風の特化して話すと、テレビのニュースなんかで聞くんですが、避難場所へ行ってやっと逃げた人が、今度は風で屋根が飛んで、また次へ行かないかんというような状態が発生したということがあります。そういう分も十分気を付けてもらいたいということと。

それと、コロナ禍でありますので、やっぱり3密が避けたいとこで分散することで、それはもう今までの皆さんの質問からにもあったように、その分散できるように増設をしているということも聞きました。そういうことはそれでいいと思うんですが。

あと、いろんな意味で一番大事なのは要は人なんで、その対策本部に人がいないと何ともならんわけで。台風の場合は、その事前的に参集ができます。安全なときにね、突発的な話になるとある程度、ここが高台ですので津波も何も心配ないでしょうから。そのへんの、ある程度職員の参集するための時間とか、参集できる人数とか、そういうのがしっかり把握できているかなということと。

それともう一点、県とか国では、特に幹線道路の警戒計画があります。それは主にもう幹線道路を早く、不通になってるのを早う通そうという計画なんですけど、町道の場合はそういうことがなかなか当てはまらないことがあると思うんです。

しかしながら、やっぱり町道とか小さい町には町なりの、やっぱり孤立すると。反対に。そういう部分があると思うんですが、災害によって。そういった場合の、ある程度、その孤立を早く解消するための手だて。それは警戒計画とは言わないかも分かりませんが、ある程度そういうことも念頭に入れて、関係業者というか、そういう関係団体とかいうこととやっぱり協定を結んだり。まあ国、県の警戒計画に全ての業者が行くというね、そういうことはないと思うんで。あと、町内の業者さんなりがそういう手だても一応念頭に入れて考えていかななくてはならないときじゃないかなと。

これだけの防災意識が高まっている黒潮町ですから、それは孤立しても3日も4日、1週間くらいは食料も確保されてると思うんですが、何せ病人もおるわけで、いろんな人がおるわけで、やっぱり早く開通してあげる。孤立を直しに行くことはうんと大事やないかと思うんで。

そのへんの対応については課長はどうお考えか、お聞かせください。

議長（小松孝年君）

情報防災課長。

情報防災課長（徳廣誠司君）

それでは山本議員の再質問にお答えしたいと思います。

まず、職員の参集ですけれども、先ほど議員もおっしゃられたように、台風等に関してはそれぞれの職員が時間的余裕を持って、来られる所で参集をするように計画をしております。

ただ、大規模災害時、地震、津波等が起きた際には、全職員がここに集まれるかどうかといったところ

は、なかなか道路事情、そういったところで想定される人数が集まるというふうには考えられないと思っています。

そうした中、参集した職員の中で初動で何ができるかといったところを、今現在、職員の大規模災害時の初動対応マニュアルというのを作成しております、参集した職員が中心となって、まず初動の態勢を整えるといったことを今後整備していくというふうに考えております。

また、道路等の警戒等でございますけれども、大規模災害時に関しましてはどうしても国、県、国道、県道を優先させて、その防災拠点につながる道を警戒するという事になってはおりますけれども、それ以外、台風時の状況に関しましては、災害の状況を事前に想定をして、建設協会、また建設業者とも、その中で動いてもらう体制を事前に取りようという事で、現在も動いております。

また、黒潮町建設協会、また高知県の建設協会とも協定を結んでおり、災害時の対応については相互協力の下、やるように考えているところでございます。

以上でございます。

議長（小松孝年君）

山本君。

3 番（山本久夫君）

どうも、詳しい答弁ありがとうございました。

警戒計画ですけど、建設業協会もいいんですが、建設協会もいろんな所で協定を結んでます。県であり、国であり、港の関係、港湾、もう全て含めて災害時には協定を結んで協力しようという体制はできてるんで、あまりにもその数が多いために、なかなか建設業界の方が間に合わないようなことがありますので。

やっぱりこういう町ですから、地域地域のその建設業者さんに個別にでも当たって、やっぱりそういう根回しとかお願いとか、やるのが大事やないかと思えます。

今できている緊急時の体制なんかは、もう素晴らしい体制ができてると思えます。もう今言った参集の人数であったり、少ないときにどうするかという、まだまだそういうことを補完していただいて、より一層いい体制づくり、それから町民に対しても対応ができるようお願いをしまして、私の質問を終わります。

以上です。

議長（小松孝年君）

これで、山本久夫君の一般質問を終わります。

この際、9時分40まで休憩します。

休 憩 9時 25分

再 開 9時 40分

議長（小松孝年君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次の質問者、矢野昭三君。

8 番（矢野昭三君）

それでは、一般質問させていただきます。

コロナ禍の中にあつて、台風の余波がこちらへ回ってきて、ご苦労でございました。

それではですね、質問事項の1番、行政の在り方についてから質問を致します。

カッコ1番で、補助金など交付規則第14条に規定する、ただし、町長が補助金などの交付の目的を達成するため必要があると認めるときは、概算払い及び前金払いをすることができるとありますが、これはどういうときにそういうことの運用をしているのか。

質問致します。

議長（小松孝年君）

総務課長。

総務課長（宮川茂俊君）

それでは、矢野議員の一般質問の1番のカッコ1、補助金等交付規則第14条の規定につきましてお答えを致します。

議員がご質問されます補助事業につきましては、基本的には、補助事業が完成し、交付すべき金額が確定した後に、補助金交付申請などにに基づき交付をするものとなります。

しかしながら、ご質問のとおり、補助金等交付規則第14条に、ただし書きとして概算払い及び前金払いについての規定がされており、補助金の交付の目的を達成するために必要と認められる場合には、概算払いおよび前金払いができることとなっております。

しかしながら、ご質問の補助金等の交付の目的を達成するために必要と認められる事象についての全体的な基準を有しておらず、補助事業者からの相談や申請により、

- 1、概算払い等が、補助事業の目的を達成するために必要なのか。
- 2、概算払い等をするに十分な妥当性があるのか。

などについて、それぞれの補助事業を実施している担当課において、審査等によって概算払いおよび前金払いを行っている運用となっております。

このことにつきましては、補助事業は多様な事業の目的等により実施されておりますため、個別の事象や事業の目的を達成するための必要性などを総合的に勘案して、概算払いなどの必要性を判断せざるを得ないものと考えられますので、一律の判断基準などについては規定が難しいものと考えられます。

このため、それぞれの事業における個別の判断になるものと考えられますので、ご理解をお願いしたいと思います。

以上でございます。

議長（小松孝年君）

矢野昭三君。

8番（矢野昭三君）

補助金は、これは町の振興発展を図るために、町長がその必要性を認めて議会へ予算要求し、それをこの議会が認めたものが補助金であります。これは、このただし書きというのは例外規定でよね、担当課で判断できるようなもんじゃないですわね。

町長が特に認めてるときというのは、これ、町長の裁量権の中にある問題やき。担当課へ、このただし書きについて権限委任をしておれば別やけど、どういうことを基準にこのただし書きの運用をしておるのか。これは明確にする必要があります。

住民はですね、何かをしようとしたときには、町のこういう補助制度があるのでその制度を活用して行政参加をし、黒潮町振興発展のために汗をかきますということで、この補助事業に取り組むわけですので。それを、住民が概算払いを要求したときに丁寧な説明をする必要がありますね。これね、担当とか課長がその判断で、いいとか悪いとか決められる権限はどこにもない。しかも規則ですので、議会が議決してない。

町長の裁量でやりゆうことや。そのへんがやっぱり、住民がね、施しを受けるためにやりゆうわけやない。町民の金である。黒潮町の今年の125億の金は、一般会計。町民のために使う金、町民の生活を、暮らしを守るためにやる。それは、全体として黒潮町の振興発展につながるもの。その判断をいつ、どこで、誰がするのか。これはね、明確にする必要があります。

答弁、どうですか。

議長（小松孝年君）

総務課長。

総務課長（宮川茂俊君）

矢野議員の再質問にお答えします。

まず、答弁について少し修正というか補足をさせていただきたいと思います。

担当が判断できる旨の答弁であったということですが、当然、担当の方が原案をもちまして協議、決裁の上、町長が判断するものとなっております。

で、ご質問の基準ですが、先ほどの答弁でもお答えしましたとおり、一律的な基準の策定は難しいものと考えております。

以上でございます。

議長（小松孝年君）

矢野昭三君。

8番（矢野昭三君）

これはたくさん補助金あるんですよ。

実際、私もこの補助金の節を拾ったことがないんじゃないけど、現実に補助金を交付しゆう。概算で。概算で出しゆう事業がある。しかし、住民が要求しても概算払いはしない事業もある。

この基準はどういうことですか。

議長（小松孝年君）

総務課長。

総務課長（宮川茂俊君）

再質問にお答えします。

先ほどの答弁でもお答えさせていただきましたように、担当課と町長等が協議をして、概算払いするかしないかという決定をしますので、それぞれのケースに基づくものと考えております。

以上でございます。

議長（小松孝年君）

矢野昭三君。

8番（矢野昭三君）

あまりこれに時間取るわけにもいきませんけれども、行政手続法は決まっているんですよ。行政手続法。

これにはですね、基準を明確に定めて事業申請者に、その要件等々について説明する資料を整えておかないかんということになっておりますので、ケースバイケースと言われましても、全く何もない状態の中でケースバイケースと言われても、それは住民は困る。

見える化。最近言われておる、見える化をせないかんがですよ。この事業については概算払いするけど、この事業についてはしないというのはね、住民側からすると大変な話で、それにものすごい時間を費やすんですよ。概算金がなければ、全部ポケットマネーで立替払いするとか、銀行の借入れするとか、そう

ということがものすごい時間が必要になってくるわけです。そういうところをね、生活をする上で、基本的には何かの事業をして作り上げていくというときに、借金の算段まで自分がせないかんとなってくると、それ大変な話で、金融機関へ行って借金の申し込みもせないかん。概算払いができれば、それはそれでもう事業は即回っていくわけで、なぐれが違うんですよ、なぐれ。住民は給料がいつも定期的に入ってくるという条件の人は少ないわけですので、特に補助事業なんか入れていくという場合には、何かを作るいうときにそれへ力を傾注せないかんのに、そういう資金のことで、概算払いができるという仕組みがありながらしていただけないという。これはね、大変な問題なんですよ。時間、時間はお金なんですよ。それがね、たまらん。

そのね、法に基づいた基準をね、この黒潮町は作らないけませんよ。手続法がそうやき。今なかって、次の議会までにはそういった基準を作れるように、これは頑張ってもらわないけませんよ。政策的なものというほどのことやないです。法で規定されたことを、そのとおりにやってくださいということを言っておりますので。

どうですか。

議長（小松孝年君）

総務課長。

総務課長（宮川茂俊君）

再質問にお答えします。

基準の必要性を議員の方からご指摘いただいておりますが、まずは、周知をしなければ活用ができるかどうか住民の皆さまには分かりませんので、まずは交付申請時などにおきまして周知に努めるなど、徹底をしていきたいと思っております。

以上でございます。

議長（小松孝年君）

矢野昭三君。

8 番（矢野昭三君）

ちょっと時間が、先へいきたいことがありますので、今回はその程度で終わりますして次へ移ります。

2 番目の自然環境についてでございます。

最近、山々の雑木が枯れています。原因は何か問います。

2、3 年前には、ナラがぼつぼつ枯れてるなあとというのは目に付きましたが、去年でしたか初めに、ある所が集団的に枯れてましたね。

それで今年になって気が付くのは、この6月、7月、8月、気が付いたのはシイ。シイが枯れておりますね。ほんで、どちらかというと南東向きが多いですね。つまり、温度が高くなる面。北も東も向いた面もぼつぼつはありますけど、集団的に枯れてるなというのはどうも南東かなと。

結局、海の温度も日本海が30度まで上がったというような、テレビでやってましたが。さまざまなその要因が温度にはあるようですけど、大変心配するのはマツ枯れ。松くい虫が始まりだしたころに、この雑木の枯れ方が似てきましたね。まだ少ないですけど、このままいくとこりゃ雑木も枯れてしまうがやないかなというふうな心配があるわけですね。

どうです、このへんのちょっと見通しを伺いたいです。

議長（小松孝年君）

海洋森林課長。

海洋森林課長（土居雄人君）

それでは矢野昭三議員の、雑木が枯れている原因についての質問にお答えします。

雑木の枯れについて町内を調査したところ、拳ノ川地区の山林を中心に、佐賀地区内で広葉樹の立ち枯れを確認しました。

正確な範囲や本数は現状では把握しておりませんが、被害木の多い拳ノ川地区の山林に入り現地調査を行ったところ、シイの木を中心に昆虫による食害が見受けられました。

その原因として、カシノナガキクイムシという昆虫が運ぶナラ菌と呼ばれる菌が被害木の幹の中で繁殖することによって引き起こされるナラ枯れというものが考えられますが、確実なものではありません。

現在、高知県の幡多林業事務所に被害状況を報告しております。原因調査を依頼しておりますので、調査結果が出次第、また、その状況によって今後の対応策を講じていきたいと考えております。

以上です。

議長（小松孝年君）

矢野昭三君。

8番（矢野昭三君）

始まりのところですので詳しいことは分からんと思うんじゃけど、変な虫がそこへいるというのは、何でその虫がそこにいるのかと。虫が悪いことしゆういうのは分かったけど、じゃあ何で虫がそんなに増えてきたのか。そのへんが、やっぱり今から取り組む課題ではないかなと思うんですが、そこを気を付けてしっかり取り組んでいただきたいと思います。

次へ移ります。3番、交通安全計画についてです。

交通事故がない、安全、安心の町づくりのために、交通弱者に寄り添った交通安全計画を策定しているか問います。

昨年もこの質問をしておりますが、この年度の3月には策定をするという答弁をいただいておりますので、そのどういう内容、中身、作り方。

まあ素晴らしいものがやってくれようと思うんですが、期待しておりますが、どういう計画ですか。

議長（小松孝年君）

情報防災課長。

情報防災課長（徳廣誠司君）

それでは矢野議員の、交通安全計画についてのご質問にお答えしたいと思います。

本年度、黒潮町交通安全計画を作成するよう準備を進めているところで、現在、案を作成しているところでございます。

また、黒潮町交通安全対策会議条例により同会議を設置するため、委員の任命、委嘱をお願いしているところでございます。

今後、早急に同会議を開催し、委員の方の意見を伺い、交通安全計画を策定していきたいと考えております。

計画案の内容につきましては、まだ案の段階ですけども、道路交通における自動車と比較して弱い立場にある歩行者に対しまして、また、高齢者や障がい者、子ども等の交通弱者に配慮するとともに、その安全を確保する思いやりを持った人優先の交通安全思想を基本として、取り組みを実施したいというふうに考えております。

以上でございます。

議長（小松孝年君）

矢野昭三君。

8 番（矢野昭三君）

実は昨日、ここへ来るときに、これ。課長にこれ、後でプレゼントしますので。

これね、こんなええもんあったんですよ、これ。お遍路さんが14、5人ですかね、これ56号。これ歩いたところはね、報道ではないんですよこれ。歩道がない。こう集团的に、よそから泊まりがけで来ていただいて、集団でこういうお四国回り言ったらいいんでしょうかね、こういうことをしていただいと。

観光観光いうて言いよりますけど、これね、大変危険ながですよ。ここ。ここに金属の部品が、擁壁を貼り付けておるんですね。こういう感じのもん。だから、自動車から見たときには大変素晴らしい、その標識にはなる。しかし、歩行者から見たときに、歩行者のここにあるんですよ。肩口に。それで、反射鏡もある。それで何か分からんけど、ちょっと忘れた、既成のこんな高い公安委員会のやつも2本ある。こんなとこへ車が乗り上げてきたら、もう大変なことになるわけです。これ、歩道ではないんですよ。側溝の上を歩きゆう。水路の上。側溝蓋はまあ40センチ、50センチですから。まあ、外で50センチね。だから、70センチぐらいの所を歩きゆう。で、つえを持ってるんですよ。お四国回りは、つえ。

それから、背中にこう背負ってるもんなんかがあって、これいっぱいになって歩きゆうわけです。これ、幅をね。で、その脇を車がどんどんどんどん。ここは50キロ走行です。規制速度。だけどね、昨日も朝出会ったんですけど、最近、丸太を運びゆう大きなトラック、トレーラー言ったり、けん引車言ったりするんですけど大変大きなものの、この辺走るには一番長いと思うんですが、ここをすり抜けていきゆうわけですね。この脇を。すり抜けるいうか、この脇を通りゆうわけです。だからその大きなものをね、ここへずっと入れたら、この方たちがどういう所を通られておるかいうのが分かるんですよ。歩行者が。

そして、私も最近まで申し訳ない、気が付かなかったのは、電動車、電動カーと言われるものがあるんです。それがね、ちょっと体が具合が悪い方とか、運転免許が頂けない方が利用しておる車なんです。この国道、ここ通れないんですよ。これね、電動カーというのはね、歩行者の扱いですね。歩行者。だからね、ここは大変素晴らしいこの通路としては、通路ですよ。歩道やなしに、通路としてはいいと思う。ものすごい悪いその通路がいっぱいあるわけですね。

そして、この共生とかいう言葉が最近は言われておりますけど、お互いに生きましよう、生きていきますというところで。これね、体の不自由な方が。不自由なにもいろいろな方いらっしゃるけど、歩くのに恐ろしい。そういう所へ立ってみて、現実に歩いてみて、歩行者の側からこの交通安全計画を作っていただくことを特にお願いしたいわけです。障害者基本法なんかを十分に熟読していただいてね、それでやはりこの計画を作っていただきたい。

割合、元気な若い方は、反射神経もいいし視力もいい。そういう方が多いわけですね。で、車の中からね、これいくら見ても分かりません。ぴんときませんよ。ここ実際歩いてみな。立って。そういうことを強く担当課長には要望しておいてですね、計画を策定については、よっぽど弱者を考えていただきたい。

そして、県の交通安全計画見よったら、仁井田、久礼、歩道の計画が挙がってますね。国交省の今年の予算はね、仁井田じゃったかな、歩道の計画はあるんですよ。黒潮町も1カ所あるね、佐賀へ。

やっぱりね、この交通安全計画がしっかりしてないと、そういう安全、道路のその歩行者の安全を守るためには計画自体をかちっと作っちゃっかなですね、予算を執行していただく国、県に対して要望するにしても力が弱いんですね。それはね、関係機関要望していくときも、その計画に基づいて改善してくださいよという力になるわけです。そういうことを考えて、しっかり取り組んでいただきたいです。

新しくできる計画には期待をしておりますので、この質問はこれで終わります。

だから、ここで1回終わるけど、質問終わるけど答弁、1回お願いします。

議長（小松孝年君）

情報防災課長。

情報防災課長（徳廣誠司君）

矢野議員の再質問にお答えしたいと思います。

議員おっしゃられるように、交通事故の犠牲者になるのは圧倒的に弱者の方ですので、先ほど申しましたように交通弱者、高齢者、障がい者等の視点に立った計画を作っていきたいと考えております。

以上でございます。

議長（小松孝年君）

矢野昭三君。

8 番（矢野昭三君）

4 番目の、港湾など公共事業について質問致します。

これは6月にも質問したんですが、県へ確認しましたらね、なかなか予算は見通し立ってないんですね。課長答弁は先月はね、予定とかいう話でしたけど、これは話にならないと思って、また今回質問、重ねます。

カッコ1番ですね、県管理佐賀港湾前の鹿島南等というがありますが、それは手前に白い灯台がありますので。皆さんのお手元へ着いちゅうかどうか分からんけれども、こういうものが行ってますか。もし行っちゃったら見ていただきたい。これは私が8月21日、先月の。たまたまこの裏を通りかかったときに出た写真でございます。これは見ていただきながら、その答弁の方にも取り組んでもらいたいわけですが。

県管理佐賀港湾前の鹿島南などの外郭施設復旧について、県は9月に県内の計画の取りまとめをしますが、町としてどのような取り組みをしているのか問います。

先月の答弁はね、県は予定じゃと。来年以降の計画へ入れる。予定はあくまでも予定であってね、当てにならない。合併以来、新町黒潮町になって、私はこの場で発言をさせていただく機会をいただいてからずっとこの外郭施設の問題について取り上げておりますが、先月やったかな、県と話したけど、予算のことは全然話にならないのですよ。ない。ない状態です。

27年5月28日に、県の港湾課、漁港課課長、土木の課長、あと、漁民の方、それから漁協の役員の方、わが町の議員の方にもご足労願って、現場でこういう所で確認をしてもらうております。現場の状況を。だから、全部知っとるんですよ。現場の状況を、県は。しかし、何も進んでない。

この外郭施設については、災害復旧で私は要求しちよったんですけどね、災害できないいう。それは困ったものですと。この先端がものすご落ち込んでるね、これ。これだけ落ち込んでるね、災害にならないというがです。ほんで何が、ほいたら何があったら災害になりますかということをお願いするんですけど、それは明快な返事はない。

ほんで、漁民の方の私がお聞きした中ではね、やっぱり白い灯台の手前側、国道寄り、ここから波がどどん入りゆうんですね。そういう状況にあってですね、町としてこれ一体どんなに考えてるんですかねこれ。外郭施設については漁協の負担金も要らんがですよ。要るのは、町の負担金は要るかも分からん。今、県がやろうとしておる交付金事業については、何か要らんがやないろうかみたいな話は聞いてますけど。これね、船が傷み、イワシの網が傷んで逃げて、ね、7、800万イワシの餌が逃げて、港の中では船が傷み、その後ろには、大方、佐賀には大体2,000人おる、人が。それ公共施設、町の学校、老人福祉施設、金融機関、病院、そういったものがいっぱいあるんですよ。低気圧がだんだんだんだんえろうなりゆう

うときに、県の言いなりに、はいはいではいかんこれ。確かに、県が責任はあります。管理やから。けど、もうちょっと強く声を出す必要があると思うんですよ。今までずっと、平成19年以来この場で発言してきましたけど、27年にも現地へ来てもらいました。責任ある立場の人にも。それでもね、予算がないで終わる。こんなことがあってええですかね。

町はどんなことをしよりますか。

ちょっとまず1点目、お答えください。

議長（小松孝年君）

海洋森林課長。

海洋森林課長（土居雄人君）

それでは矢野議員の、県管理佐賀港湾前の鹿島等の外郭施設復旧について、町としての取り組みに対しての質問にお答え致します。

6月議会においても議員からの質問がありました件にはなりますが、担当課としましても、佐賀港湾内の静穏度対策は非常に重要な課題であると認識をしています。

議員からも先ほど指摘されましたとおり、県管理佐賀漁港前の外郭施設である鹿島の鳥居前からの消波ブロックや、港湾施設の鹿島防波堤2、厳島防波堤2では、台風の波浪等の浸入波により、佐賀漁港の泊地では静穏度が保たれていない状況にあります。

町担当としての取り組みとしましては、漁港管理者である高知県幡多土木事務所や港湾業務担当の高知県港湾海岸課との連絡協議を密にし、当施設の状況変化などの把握、漁業関係者への聞き取りなどを行ってきました。

また、関係組織である幡東水産振興会と歩みを同じくして、高知県議会に要望を重ねてきたところです。

6月議会以降につきましては、直近の施設状況把握として、船舶により目視点検での施設確認を行ってきたところです。

今後におきましても、当該施設復旧の早期着工を望むべく、施設管理者高知県との連絡を密にして、関係省団体とも含めて整備要望活動をさらに強く進めていく。これに尽きます。

以上です。

議長（小松孝年君）

矢野昭三君。

8番（矢野昭三君）

課長、ちょっと勘違いしたらいいけませんよ。

これね、この通告はよ、職務代理者にいちゅうわけ。答弁する中で、課としてはという答弁はない。議長の文章が職務代理者へいちゅうわけ。だから、課としてはというのは答弁になってない。

協議とかなんとかいうのは、前にもやっておるんですよ。漁業者、漁協等、関係者等協議しますという答弁はもううちよりますよ、前にも。今に始まった問題やない、これは。ね。いかに、行政は継続性のものじゃから、通告は全部町長へやっちゅう、今まで。だから、議事録も答弁書もちゃんと見てもらわなかんね。その上で、やっぱりこれは困った話をずっと訴えようわけやから、それを敏感に受け止めてもらわな困りますわね。

今からやる。それは確かに今からもやらないかんけど、今まで何をしよったかいうことを、そうすると言いたくなる。船が傷んだら、これ、誰の責任になるんよこれ。波がひとり入ってきゆう。破れた所から。あるいは、当初の港湾計画で想定できてなかった所から波がどんどん入ってきゆう。足摺をかすめた波が

入ってくる。その波が、白い灯台から国道寄りの所の航路を伝わって入ってくる。みんながね、それは知っちゃうことですよ。今初めて言いようわけじゃない。県当局は、初めから分かっちゃう。この問題は、何で動かんか。何で動いてくれんのか。

イワシの網が破れて逃げた。魚が、餌が逃げてしもうた。県知事がね、愛媛まで、その方が愛媛で仕事しようとき、愛媛まで出向いて行って、佐賀で何とかイワシを飼うてくれとお願いして、あそこでやってもらいゆう。元は。それは、黒潮町も足並みをそろえてお願いしちゆうわけ。漁協もそうじゃ。蓄養場で飼いゆうイワシが逃げしもうた。網が破れちゆう。それはね、強い波が入ってくるき網が破れるわけよ。行政は県を挙げて頼んでやり始めたことが、帰ってきてからそこで餌飼いだしたらね、どうなんですか行政の姿勢は。それでええですかね。波が入るということは皆知っちゃう。それでも改善されん。それはね、わしは情けない話じゃ思うぜ。こんなことで、どうして黒潮町の振興発展できますか。一生懸命税金払った残りて生活し、一生懸命ものを作り、やりかけたところで災害が起きる。災害の原因は何か。堤防の外郭施設が破れたなり放置されちゆう。あるいは、もともと計画に載ってなかった。波を想定できてなかった。足摺をかすめてくる波は。じゃけど、そこに港湾を造って、結果として見えるその自然現象は何か。その手元へ配っちゃう資料に分かるろう。その白い波が入ってきゆうがは去年の写真じゃ、それは。それが真っ直ぐ、旧市場の方へ入っていきゆう。ほんで、ある波は畜養の方へ入っていきゆう。みんな生活を懸けてやりゆうわけよ。船もそうよ。夜中に出ていきゆうよ、港は。みんなが寝ようときに夜もよう寝んと、ねえ。しけが来ても、時雨が降っても、冬の冷い中でも、夜中に起きて仕事に出ていきゆう。それもこれも、納税の義務を果たさないかんじゃいか。義務を課されちゆう。寝よったち、義務を課されちゆう。生活するにもお金要るやろう。夜もよう寝んと、命懸けで仕事しゆう。だからね、そこでもっと本腰で取り組んでもらいたい。

漁民の方も、力借りないかん。漁民の力も借る、漁協の力も借りる。そういうまとめることを黒潮町がせないかん。それをせんきにこんにちよ、漁民が困っちゃう。網が破れたち、後の責任は誰っちゃ取らん。そういうことをしよつたらね、誰っちゃ事業始める人はおらあせん。

そういうことで、この1番目ののがはそういうことです。

ほんで2番目のですね、カッコ2ですよ。

国は県に対し、本年12月に割り当てをすと思われる。事業の割り当てですよ。交付金事業の。佐賀港湾復旧の予算の割り当てがないと工事ができない。予算獲得のための対策を問います。

どうですか。

議長（小松孝年君）

海洋森林課長。

海洋森林課長（土居雄人君）

それでは矢野議員の、国は県に対し本年12月に割り当てをすと思われるが、佐賀港湾復旧の予算獲得のための対策についての質問にお答え致します。

先ほどの回答にも重複しますが、当該施設の整備につきましては重要な課題と認識しておりますので、関係団体とともに要望活動を重ねていきたいと考えています。

現時点でも、高知県の管理者、担当課とは、幾度か要望と対応策について協議を重ねております。整備に対する共通認識は持ってくれていると考えていますので、引き続き連絡を密にして、県の予算獲得のために町の力を注ぎたいと考えております。

以上です。

議長（小松孝年君）

矢野昭三君。

8 番（矢野昭三君）

これはね、12月には国の割り当てがありますよ。だから、黙っちゃったらこの金こっちゃ来ない。

担当課と話したらね、こちらには使う金はないけどね、高知へ使いゆう、金は。高知港内に使いゆう。そういう話があっちゃゆう。だから、黙って置いちゃったらいかん。

27年に現場見ちゆう。港湾の担当チーフも来て、現場で。それが全然進まんいうのはね、これは極めておかしい。私は去年、今年へかけてね、せめてね、災害か何かは予算入れるかなと思ひよった。ところが、去年も今年も一切ゼロ。割り当てなし。ほかへ使いゆう。予算がないいうて、黙って戻んたらいけませんよ。行ったときに。よそへ金使うきないがじゃき。ほんで、よそへ使う前にこちらへ取ったらええ、金を。まあ、工事をするがは県ですよ。県管理やからね。割り当てをどうするかいうことをきちっとやらないかん。

これは、この今言っとる部分については漁協の負担金要りませんよ。港湾じゃき。だけど、漁民の声を聞いて直さないかん。周辺は漁業権がいっぱいあるがやき。

で、要望するというのは、いつ要望しますか。

議長（小松孝年君）

海洋森林課長。

海洋森林課長（土居雄人君）

矢野議員の再質問にお答えします。

まず、要望について、いつということは決めておりませんが、とにかく早急にですね、今も要望活動はして、常に連絡を取ったり現地へ行ったりはしておりますし。

県についても、我々のこの状況を聞いていただいて、現地の方にも来ていただくということはしていただくようにしますし、また、いろいろな調査も進めたいとは思っていますので、要望として早急には行いますが、継続的な要望ということになります。

以上です。

議長（小松孝年君）

矢野昭三君。

8 番（矢野昭三君）

早急というのは、いつということ聞きゆうから、早急ということ質問してない。いつやりますかということ聞きゆう。

議長（小松孝年君）

海洋森林課長。

海洋森林課長（土居雄人君）

再質問にお答えします。

早急というのは、今月中にはまた県の方には確認したいと思います。

以上です。

議長（小松孝年君）

矢野昭三君。

8 番（矢野昭三君）

じゃあ次の3番、カッコの3へいきます。

佐賀港湾の航路が2本、南側に設置されております。これ先ほど言いました、沈降してなくなっておる防波堤、白い灯台の沖側と浦側と、2本あるわけですね。そこをですね、ひいといの極めて強い風によってですね、この波がそこから入り、港湾区域を通過して漁港区域、伊与木川河口から河川を伝い漁港泊地へ、および排水口へ逆流し、被害をもたらしている。港湾の波を漁港へ入れないための改善計画が必要だが、町の考えを問います。

これは言ったように、当初からは計画にない、航路から入ってくる波を止めるということについては元の計画になかったもので、これは改善するために強い要求をする必要があります。

漁民の声としたら、白い灯台から国道寄り、この波を一番先に殺してほしいと。それは過日の台風のと きにも、市場へいた漁民の方の声も5、6人いましたが、その方も、その波を殺してくれと。それはずう っと以前から言われようことぞ。分かりながら何もせん。まあ県ですよ、県管理やから。だけど、住民が 困りゆうので、黒潮町行政としてはこれは放置するわけにはいかん。

そういうところですね、課長、答弁に骨折りゆうき、職務代理者が答えてもろうた方がええんじゃない。

議長（小松孝年君）

町長職務代理者。

町長職務代理者（副町長 松田春喜君）

再質問にお答えを致します。

県への要望ということになるかというふうに思っております。漁民の方々、そしてまた漁協、そして 要望の方法もですね、災害復旧というようなことで要望というふうに捉えてもおりますけども、その要望 の方向等も協議してですね。

自分も職務代理者ということになっておりまして、また新しい町長、10月の4日にはできてまいります。 そのあたりを協議してですね、要望活動の方を協議してまいりたいというふうに思います。

以上でございます。

議長（小松孝年君）

矢野昭三君。

8番（矢野昭三君）

今やっとなる分は、航路から来る波を止めてほしいというのはね、災害でも何でもありませんよ。そこへ やらないかん。波止めを。

上川口はちゃんとやってますよ。航路の入り口、ぴしゃっと止めちゅう。波が入らんように。ああいう ものが必要だということを言いゆうわけです。

それで、町長職務代理を、ちょっと時間がわしもったいなき言いたくなかったんじゃけど。この職務 代理の問題は152条を見たらね、町長が欠けたときは、副市町村長がその職務を代理する。たったそれだ けです。つまり、遠慮することはないがですよ。うんと奥ゆかしいき遠慮しゆうけんどもね、私はそう思う ちゅう。

というがは、先ほどの山本議員も言いよったけど、地震、津波なんかが来たときに、これ職務代理者じ ゃきいうて手をこまねいておるわけにいかんがですね。だんだんだんだん、やっていかないかんがですよ。 地震、津波の問題が出てくるので。あるいはコロナでも一緒です。幸い、その陽性反応者ですか、うちには いないけれども、みんなが努力して。もし出たときに、今後どうしていくかというときには、それね遠 慮しちよつたらいいけませんよ。遠慮せずに、将棋打つように、つんつん手を打っていただきたい。それを

ね、住民は期待しちよりますよ。ほんとに遠慮したらいけませんよ。

そういうところで、次へ向けてというお話もいただきましたので、それはそれで速やかにやってください。よろしく。

それから、次のもう一つ。そのときにあったのは、それはこの通告はしてないじゃけど、最近の漁民の話では、その港の泊地の口に波止めをしていただきたいという声も挙がっております。それらも負担金も要る問題でもあるし、急なことは言うても難しいですが、それが必死の声なんですね。もうそんな、何だかんだで大きな金があるき予算がないじゃいうがやったら手前の口で波を、港の泊地の所を止めていただきたいと。そういう必死の訴えもあるわけですよ。そういうものをね、敏感に感じてもらいたい。そうしないと、住民はねやる気を失います。ここで漁業やって生きる、そういう何のために苦勞せないかんのか。そういうところが出てきだしたら、嫌になりますよ住民は。だから、積極的に助けていただきたい。

特にこういう緊急時においては、執行機関の力強い声が住民の力になりますので、それはね、みんな期待しちゅうがですよ。私にここでがんがん言われるきいうてね、こんまい声になったらいけません。反対に太い声で言わな。

それで、次へ移って4番目の、この佐賀漁港の泊地の排水口改善対策計画の策定状況を問います。

議長（小松孝年君）

海洋森林課長。

海洋森林課長（土居雄人君）

それでは矢野議員の、佐賀漁港の泊地の排水口改善策の計画の策定についての質問にお答え致します。

排水口付近の対策につきましては、6月議会でも回答させていただいたところもありますが、現時点での基本的な改修策と致しましては、泊地内に流れ込む水量を一定量、上流個所において分水させる計画を進めております。

その場合は、排水ポンプによる流量の減水対策を想定しています。

計画としましては、本年度の発注である概略設計が滞りなく進み、年内にも事業計画全体が定まれば、関係者同意も含めて、早ければ来年度からの一部整備実施が見込まれます。

また、本年度の概略設計が滞りなく進み、関係者同意も踏まえ年内に計画全体が定まれば、早くて来年度からの事業実施が見込まれてきます。

本年度は近々の災害対策のため、特にスピード感を持って事業進捗（しんちょく）に取り組んでいくことが求められており、今後は早期の整備に向けて取り組んでいきたいと考えます。

以上です。

議長（小松孝年君）

矢野昭三君。

8番（矢野昭三君）

それは分かりました。ひとつ頑張ってやってもらいたいと思います。

5番目の、国道56号についてでございますが。

カッコ1番でですね、高岡郡四万十町境の国道56号の歩道は、隣の町の歩道ですね。高岡郡。両側に設置されておりますね、歩道が。2メートル幅のものが。しかし、そこからすぐですよ。幡多郡黒潮町へ入ると歩道が未設置ですね。人命を守る立場から、また、四国圏広域地方計画を推進する立場から、国道56号の歩道の現状をどのように考えているか問います。

議長（小松孝年君）

建設課長。

建設課長（森田貞男君）

それではカッコ1の、国道56号の歩道についてお答えを致します。

先般、6月議会定例会の一般質問においてもお答えしました内容と重複する部分があるかと思っておりますが、ご了承をお願い致します。

議員より、人命を守る立場から、また四国圏広域地方計画を推進する立場から、国道56号の歩道の現状をどのように考えているかのご質問でございますが、黒潮町内、特に佐賀地域においては、歩道の未整備箇所が数多くあることは承知をしているところでございます。

四国圏広域地方計画は、急激な人口減少、少子化、異次元の高齢化、巨大災害の切迫等、四国圏の現状や課題を踏まえ、対流促進型国土構想を基に、稼げる国土、住み続けられる国土の実現を目指し、四国圏の自立的持続的発展に向けた将来展望を描いたものでございます。

四国圏広域地方計画における広域プロジェクトの一つとして、お遍路の癒しや、四国の文化を受け継ぐ四国伝統継承プロジェクトにおきまして、遍路道、札所周辺的环境整備として、お遍路さん等が安全で快適に巡ることができる環境整備をするため、歩き遍路の主な経路における危険個所対策を推進するとともに、道の駅、みなとオアシス等の休憩個所、公衆トイレの整備を進めるとの記載もございます。

道路管理者であります中村河川国道事務所へは、現状での利用実態を踏まえまして、歩道未整備区間の必要性について引き続き強く要望を行い、今後も道路、歩道整備を促進することにより、住民の皆さまが日常生活において安全、安心に道路を利用することができ、利便性の向上が図られることにより、地域経済の発展や暮らしやすいまちづくりにつながる道路、歩道整備に努めてまいりたいと考えております。

議長（小松孝年君）

矢野昭三君。

8番（矢野昭三君）

それで、次の2番目へ移りますが。

国道56号、四万十町、旧佐賀町、旧大方町の歩道の構造に違いがあります。お遍路に意見を求めると、旧佐賀町の方にある不破原から峠へ、四万十町境までの間、これはね、歩きにくいというお話をいただいております。それは、コンクリートの水路蓋の上を歩くため、段差がある。1枚1枚の蓋が掛けてありますので、コンクリの。それぞれが高さが違う所が多くある。それで狭い。で、コケなんかが生えて滑りやすいですね。そして、山道へ掛かるとこう配がきつい。片坂なんか大体6パーセントぐらいですかね。そこへ木の葉っぱが落ち、1枚だけやないですね。たくさん落ちるんです。枝が落ちる。コケが生える。で、滑りやすいんですね。で、車道との、この今通路として使っておるその境に柵がないんですね。だから、草が通路の部分へ生え込んでいるなどの声がありました。

また、電動車の幅は70センチです。現状の進路幅が70センチです。狭くて、これは実際利用できない。幅だけではないんですね。そこへ乗り込むための接続する部分が大変急で狭い。大型車と行き違うときは恐怖感があります。通行の危険性を体感するために、一番狭い通路に立ち調査をするか問いますが。

先ほどちょっと見ていただきましたこれなんかは、場所的にええとこなんですよこれ。歩くには一定の幅がある。だけど、これよりもっと狭い所がある。ほんで、カーブの所にそういう金属製の、目を誘導するために物があるんで大変危ない。そこを通り抜けるときなんかでもですね、滑って転んできたらかこれは困るないうことで、心配しながら通っておるわけですね。多分、大概の人がそういう危ないなと思って通っていると思うんですけど。

私はね、あそこまで行ったんですよ。七子峠までは旧窪川、今の四万十町ですので、そこはもうほとんどできておるんですね。ずうっと。あと2カ所、50メートル、50メートル。仁井田と影野で50、50、100メートルくらいが70センチ幅のとこなんですけど、もうそれ以外は全部できてます。ほんでそこを歩き過ぎて、久礼坂を下って中土佐町久礼まで行ったんですけど、わが町のそういう通路、歩道として利用しておる分の造り方と違うんですよ。久礼坂はまた。単にそこを通行するだけやったら、久礼坂の方が通り良いと思う。私が現場へ行って調べました。

そして、西は愛媛県境まで行きました。宿毛市抜けて、川を渡った向こう側からは、大体70センチ幅の通路があります。ところが、そちらはこう配が緩い。カーブも緩いために、旧佐賀町のそういった部分を通る所よりは歩きやすいですね。そういう違いがあるんですよ。

国道の路面と平坦にこうなっちゃう部分と、黒潮町佐賀の方の分を見ると、外側線があって、路肩があって、それから1段上がって、20センチくらい上がって側溝蓋の上を人が通れるようになっておると。路側がなんぼ広がってもですよ、80あってもね、タッチ70なわけよ。人が通りなさいやというようにしてある所は70。中にはね、私が測ったら70ない所もあります。

だからね、四万十町は七子峠までは国土交通省中村事務所の管内。それから、愛媛県境までもそう。七子峠から東は土佐国ですか、管理は。ちょっとそこははっきり確認してないですけど。どうしてこんなに違うかなあと、やっぱりそこが疑問に思うところです。そこを何とか、障がい者の方も通りやすいように、電動車も通りやすいように。

この前、今年の2月5日の新聞にも、共生社会実現支援、バリアフリー法改正案閣議決定と。そういったこともなされておりますので、最近では共生ということが強く言われておりますので。観光、ここの共生、それから車の安全な通行。当然、これもせないかん。けど、併せて人間が一番大事でございますので、やっぱりね人間が安全にそこを通れる。そういうものを目指してね、わしは取り組んでもらいたいと思っております。

これ、どういうことになちよりますろうかね。この違いというものを調査を、危険さをね、一回感じていただきたい。そう思って質問をするわけでございます。

いかがですか。

議長（小松孝年君）

建設課長。

建設課長（森田貞男君）

それでは、カッコ2の歩道の調査についてお答えを致します。

6月議会定例会以降、町の担当部署において、町内の歩道未整備区間について現地調査を適宜実施しております。

歩道の構造については、議員ご質問のとおり、未整備区間については防護柵もなく、狹隘（きょうあい）な側溝の上を歩かなければならず、安全、安心に歩行することができない状況でございます。

つきましては、引き続き利用実態を含めた現状の詳細把握に努めるとともに、本日議員より頂きましたお遍路さんが通行している状況写真も添えて、地域の皆さまや、お遍路として当町を訪れ歩道を利用される方々が、より安全、安心に利用していただけるよう、道路管理者であります中村河川国道事務所とも協議を行ってまいりたいと考えております。

議長（小松孝年君）

矢野昭三君。

8 番 (矢野昭三君)

質問の仕方が悪かったんで、課長の答弁が前もって答えてくれて、ありがとうございます。

が、国道 56 号というのは、やっぱり私たちの生活する上では命の綱の道でございます。大変重要な大切な道ですので、これを利用しておるときに事故に遭わんようなことにならないかと思えます。

歩道などの整備は、2メートルが基準のはずですね。だから、2メートル幅は最低基準、ずうっとそれで行き抜ける必要があると思うんですよ。そういうことを、国の管理する財産でございますので、一定の基準で行き抜ける。最低2メートル、それ以上のもので行き抜ける。そういうものが必要であると思えますので、それはしっかり取り組んでいただけることを期待致しまして、この歩道のことについては終わりたいと思えます。

割合ですね、あと付け加えますとね、気が付かないことがたくさんありまして、私がここで質問させていただいても全部気が付いちゅうわけじゃないです。気が付かんことが多々あるやろうと。だから、大変申し訳ない思うときもありますが。ただ、気が付かんことについてはどうしても教えてもらわな分かりませんので、それはまたその折に教えていただきたいと思うわけですが。

今、人の移動が自由化とかいうこともいわれておりますけど、やはり行政組織を挙げて取り組んでいただきたいと思うわけですね。障がい者の方の、駅のホームの階段の撤去して、車いすでホームへ出入りできるような状況にさせていただいております。佐賀駅については、それも2年、足かけ3年くらいかかっておるんですね。でも、出来上がってみてお聞きする声は、非常にありがたい。高知にお住まいの方がいらっしゃっても、家に不幸があってもなかなかそういう階段があると、家へ帰りたくても帰れない。そういう方も、今はその階段を通る必要がない。4メートル上がって5メートル下がるとかいうような階段でしたので、そういうのはね、やはり行政の力でないとできんがですよ。そういうところを、皆さん今以上にご理解いただいて、暮らし良い町にしてもらいたいと思うんです。

30年のころの新聞見よってもですね、障がい者雇用恣意的ずさんとかいう、これ一面トップの記事になっておりますが、そういうようなことはいけませんので。やはり一人一人が暮らしやすい、そういう町をつくるために新しい町をつくったわけですので。この恣意的ずさんというがは、黒潮町のことを言いようがやないですよ。これは新聞へ出た全国的なことを言いゆうので。そういったことがないように、みんなが笑うて暮らせるような町をつくる必要があると思えますよ。

合併した当時のことを思い浮かべたら、多分みんなええ町をつくらうということで合併して黒潮町つくったはずですので。

これからも大変困難なときではございますが、副町長を筆頭にみんなが力を合わせて、暮らしやすいまちづくりのために頑張っしてほしい。そういうことを住民から、私は直接声も伺っておりますので、仕事の方は思い切ってごんごんやっていただくことを期待しまして、ちょっと6分余りましたけど、私の質問を終わります。

議長 (小松孝年君)

3 番については、もう2番の答弁でオーケーということですね。

8 番 (矢野昭三君)

そういうことです。

先にわし、お断りしたでしょう。私の質問の仕方が悪かったきいうて。先答えてくれました。

ありがとうございます。

議長 (小松孝年君)

分かりました。

これで、矢野昭三君の一般質問を終わります。

この際、11時10分まで休憩します。

休 憩 10時 56分

再 開 11時 10分

議長（小松孝年君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次の質問者、山崎正男君。

4番（山崎正男君）

それでは議長のお許しが出ましたので、私の一般質問を始めます。

まず、熱中症対策についてが1番でございまして、2番目が町長不在中の対応についてということで、進ませていただきます。

この質問をする以前はもうちょっと暑いときでしたので、少し季節感が入って変わってこようかと思えますけれど、まず質問させていただきます。

新型コロナウイルスの感染防止に加えて、今年は熱中症のニュースも多く聞かれましたが、38度を超える異常な気象が世界的に起こっています。

地球の環境が我々の生活を脅かす時代ではありますが、黒潮町の現状をお聞きしますということです。

この熱中症、この私の質問の時期が遅れましたのでちょっとこの暑い話がしにくいかも分かりませんが、よろしく願います。

まず1問目、消防の救急出動は何件あったのでしょうか。

願います。

議長（小松孝年君）

健康福祉課長。

健康福祉課長（佐田 幸君）

それでは山崎議員の1、熱中症対策についてのカッコ1についてお答え致します。

全国的に毎年、最高気温が塗り替えられるなど、暑さが増してきております。今年は特に猛暑が続いております。新型コロナウイルス感染症と併せ、今年度は熱中症についての予防を早くから呼び掛けるということで、5月末に、環境省および厚生労働省が合同で、令和2年度の熱中症予防行動に係るチラシを发出して住民の皆さまに呼び掛けをしております。

議員ご質問の、黒潮町の住民を救急搬送した件数について黒潮消防署に確認をしますと、本年度4月以降では、5月1件、6月1件、7月4件、8月1件で2名搬送の、7件8名となっております。

年齢で見ますと、10歳未満1名、10歳代2名、60歳代1名、70歳代2名、80歳代1名、90歳代が1名となっております。

その年ごとに天気や気温、湿度等の状況が違いますので、昨年度の人数と比較ということにもなりません。まだまだ暑い毎日が続いておりますので、住民の皆さま方におかれましては新型コロナウイルス感染症の予防と熱中症の予防のため、屋外で人との距離が2メートル以上離れているときは積極的にマスクを外す。涼しい服装、日傘や帽子で暑さを避ける。喉が渇いていると感じなくても小まめに水分補給をする。部屋の温度に注意をしエアコンや扇風機を上手に使う。1時間に1回、5から10分部屋の換気をする。

この5点についてご留意いただき、まだまだ暑い日中の時間はご家庭で取り組んでいただきたいと思います。

以上でございます。

議長（小松孝年君）

山崎君。

4番（山崎正男君）

ありがとうございます。

熱中症ということで、今、7件ぐらいの出動があったということです。熱中症は自覚症状が意外と色々な状況が出てくるようでして、目まいとか汗とか出てくるようでして、これ猶予のならない状況がございます。

熱中症そのものも私もあまり勉強したこともなくて、今回調べておると、その熱中症にも3段階くらい何かランクがあるようでして、熱中症、日射病、熱射病、こういう段階があるようです。

日ごろは、普段外に出て仕事をされてるような方は、特に畑仕事とかそういうところでやる場合は日射病、こういうことに注意をせないかん。今、課長の方からもいろんな観点の留意事項がありましたけれど。

それから、熱射病になると一番ランクが高いようでして、すぐに救急車で呼んで行かねばならないという状況がございます。

消防の方も、いつでもその対応ができるであろうと思っておりますが、これからもぜひ消防の方でもその対応を特に躊躇（ちゅうちょ）せずですね、連絡してくれというようなことになろうかと思っておりますので、そういう方面の連絡も消防にも伝えておいていただきたいと思います。

それから、2番目に移りますけれど、町からの注意事項はどういうことをされているのか。

日ごろの注意事項、今までで広報でやったとか、こういうことを各家庭にお知らせしておりますとかいうことがあれば教えてください。

議長（小松孝年君）

健康福祉課長。

健康福祉課長（佐田 幸君）

それでは山崎議員の1、熱中症対策についてのカッコ2番についてお答え致します。

町からの注意事項はということですが、町からは住民の皆さまに、新型コロナウイルス感染症の第1波が落ち着き始めた5月下旬に、6月から集いを再開できますという周知をさせていただきました。

この集いの、地区ふれあいサロン、運動教室、あったかふれあいセンターを再開するに当たっては、保健師が開催初日にその場に行き、新型コロナウイルス感染症対策と熱中症予防について、パンフレットを用いて講話を実施しました。

各訪問時にも、熱中症の危険やその対策について、随時保健師が呼び掛けを行っています。

要支援、要介護認定をお持ちの皆さまには、担当の介護支援専門員が訪問時にお声掛けをさせていただいております。

また、6月の区長便では、熱中症予防行動のチラシを全戸に配布しておりまして、7月の町の広報での周知啓発やホームページへの掲載、8月からは全町に告知放送でコロナ対策と熱中症予防の啓発の放送をしているなど、住民の皆さまの健康を守るための取り組みの一つとしております。

今年はマスクの着用を呼び掛けていることもあり、例年以上に熱中症の危険度が高くなっております。猛暑も続いておりますので、引き続き住民の皆さまには、感染症予防と熱中症予防の2つをセットにして

呼び掛けをしていきたいと考えております。

以上でございます。

議長（小松孝年君）

山崎君。

4 番（山崎正男君）

いろいろと広報等も活動をしてもらっておりますが。

この熱中症が我々の住民の中にどのように影響があるか考えたときに、この熱中症も働く方々、漁民から農業、それぞれ現場で働いたり、それから営業を家の中でするにおいても、かなり影響が出てくる。日ごろから空気の流通を良くしたり、陰に入ったり、そういうことで個人個人がしっかりと考えて注意せないかんところがあります。

わが町でその熱中症がひどく出るようなことのないようなことを、町民の方々にも常に勉強していただき、我々自身も農業者であれ漁業者であれ、外で働いておる方にも暑さは要注意。これをぜひ徹底して、今後ともやっていっていただきたいと思います。

いろんな行事の中でも、観光のいろんな出来事でスポーツでもやる、行事もやる。こういう中においては特に我々がイベントを、今年はなかなか難しいですけど、今後やるときにもですね、かなりこの熱中症については来客者とか、そこに参加される方に呼び掛けを明確にしていかなければならないと、このように思いますので。

そういう観点から言うて、町内の各関係される団体、それから観光社、これらについてどういうふうこれから知らせていくのか。全員が広報を見てるわけでもないし、それからたまに来られる方もおるであろうし。

それらのことを踏まえて、何かやっていきたいということがあればお願いします。

議長（小松孝年君）

健康福祉課長。

健康福祉課長（佐田 幸君）

それでは山崎議員の再質問にお答え致します。

これまでも全町の告知放送で、コロナ対策および熱中症予防の関係は周知をしてきましたけれども、今後も引き続き住民の皆さま全体に、または事業所の方にも呼び掛けをしていきたいと考えております。

また、それぞれの団体の方には、また各省庁の方からも熱中症の呼び掛けのチラシ等も配布をされていると思われますので、そちらの方も確認をしていただきながら取り組んでいただければと思います。

以上でございます。

議長（小松孝年君）

山崎君。

4 番（山崎正男君）

いつ、いかなるときでも町民が安心して、熱中症対策はこうすべきじゃと。勉強もして、それから連絡も救急の方にも行き届くように、不安がないような体系づくりをひとつよろしくお願いします。

次に、3 点目に移ります。

この熱中症の絡みで、私があそこはどうかというのを考えたわけですけど、佐賀の避難タワーは暑さに対しては対応できるのかなという心配を持ちました。

これはタワーだけでなく、これからの避難所、避難場所、こういうところも踏まえてですね、熱中症も、

今コロナの中で大変ですけど、熱中症が発生しないような対応を整えられるのか。そういうことも考えてお願いしたいわけですけど。

この佐賀の避難タワーは、暑さ対応はどのように考えておりますか。

議長（小松孝年君）

情報防災課長。

情報防災課長（徳廣誠司君）

それでは山崎議員の、佐賀地区避難タワーについてのご質問にお答えしたいと思います。

佐賀地区津波避難タワーにつきましては、平成28年度に完成しているものでございまして、壁を有した居室部のある避難タワーでございます。夏場の暑いときには、居室のフロアにつきましては温度上昇が大きくなる状況でございます。

このため、本年度の資機材整備におきまして、居室部の空気循環を目的としたサーキュレーターや扇風機などの整備を予定しております。

居室内の空気を循環させて屋外に放出させるため冷房設備というわけではございませんが、一定の暑さ対策としての効果はあるものと考えております。

以上でございます。

議長（小松孝年君）

山崎君。

4番（山崎正男君）

あそこは、できたところから何か密閉空間だなという感じがしておりましたので、今言う空気の循環とか、サーキュレーターを構えるということですけど。

あそこで避難した方が、夏の暑いときですよ、こういう今の7、8、9とかいうシーズンに何か津波で避難せないかんとか、地震で避難せないかんとかいうときにはですね、あそこへ滞るのは大変だなという気が致します。

ほんでコロナ対策も踏まえて、あそこはまた、以前にも話しましたけど音響もかなり高く聞こえますので、ワイワイになるとますますのぼせる。こういうところがあるかと思っておりますので、今後、できるだけ熱射病も対応できる。

それから、冷やしたものの、何か冷やすものも構えれば、一番ありがたいかな。あそこは通常の広場がありますので、陰でもありますので、そこで寝らして体を冷やしてあげることが大事かと思っておりますので、今後、その設備を整えるようにぜひお願いしたいと思います。

何かそういう考えはありますか。そのほかに。

議長（小松孝年君）

情報防災課長。

情報防災課長（徳廣誠司君）

山崎議員の再質問にお答えしたいと思います。

佐賀タワーに関しましては、先ほど答弁しましたように居室部も有しておりますけども、屋外の避難場所も屋根付きでございます。

そうしたところから、言ったように居室部に関しては冷房設備等の考えはございませんけども、一定サーキュレーター、扇風機等で空気の循環で、今までの状況といったところは回避できるかと思っております。

また、屋外におきましては、風通しも高い位置にありますのでいい環境にあるということから、もし居室内で具合が悪くなれば屋外に出てください、その中で一定体を冷やしていただくといったことも考えていただきたいというふうに思っております。

以上でございます。

議長（小松孝年君）

山崎君。

4 番（山崎正男君）

4 番に移りますが、今後の避難の在り方に加味することが大事ではないかということです。

これは防災計画の中にどのように取り組んでいくかということですが、各施設、町にある避難場所とかで、現実はこの間の台風の時も、かなりの数の避難場所がありますけれど、そこらその熱中症にも対応できるのかどうか。それを踏まえた考え方を持っていただきたいのですが。

ここはちょっときついね、というような施設はありますか。

議長（小松孝年君）

情報防災課長。

情報防災課長（徳廣誠司君）

それでは山崎議員の、今後の避難の在り方のご質問にお答えしたいと思います。

現在、避難場所につきましては、資機材整備等、避難した後の環境を考え、どういうものがよいか検討し整備していきたいと考えております。

佐賀地区津波避難タワーにつきましても居室を有しているため一定の暑さ対策も必要ですが、その他のタワー、避難場所等の一次避難場所につきましては屋外環境ということもあり、暑さよりも優先される対策が必要な個所も多くあるため、それぞれの避難場所に応じた整備を進めていきたいと考えております。

また、長期の避難生活となる避難所では暑さに対策の必要な個所もございます。今後も、避難場所、避難所の環境整備、改善の中で取り組みを進めてまいります。

避難の在り方につきましては、コロナウイルス、熱中症等、避難した後に感染、発症するケースも想定されますので、そういった場合に何が必要で、どう対応すべきかについて、福祉部局とも連携、協議しながら整理をしていく必要があると考えております。

以上でございます。

議長（小松孝年君）

山崎君。

4 番（山崎正男君）

この熱中症は、そこに例えば熱中症と思われる人が出た場合に、職員も熱中症対策という、どういう手当をせないかんか、どういうふうな行動をせないかんか。こういうことを職員間でも講習等もっと入れて、各対応する職員が、施設の。緊急時にはこういう心臓マッサージまでいかも分からんし、それから、冷やすものをじゃあどうするかいうたら、水を掛けないかん場合もあるかも分からん。そういう状況を皆さんが共有できるように、ぜひ課長からもそういう素案を出して、職員全体がそういう力量があるというふうになってもらいたいのですが。

いま一度、お願いします。

議長（小松孝年君）

情報防災課長。

情報防災課長（徳廣誠司君）

山崎議員の再質問にお答えしたいと思います。

今回のコロナウイルスの対策に関しましても、その来た方への対応とかそういったことをチラシを作って、それぞれの避難所にお配りしております。

熱中症に関しましても、まず、熱中症にかからないような状況をつくる。また熱中症になった場合の対応方法とか、そういったところ。

また、先ほどの答弁の重複になりますけども、福祉部局と話をして、どういった対策が必要かといったところも取りまとめをして対応していきたいと考えております。

以上でございます。

議長（小松孝年君）

山崎君。

4番（山崎正男君）

それでは、5番目に移ります。

教育長にお伺いしますけれど、同じような内容になろうかと思えますけど、学校現場、子どもたちの状況はどうか。学校や放課後の注意事項はされているのか。

それから、現実子どもたちでそういう状況があったのかないのか。

こういうことも踏まえて、お願いしたいと思います。

議長（小松孝年君）

教育長。

教育長（畦地和也君）

それでは山崎議員の、児童生徒への熱中症対策についてお答えをしたいと思います。

新型コロナウイルス感染症対策のため臨時休業が続いたことを受け、本年度の小中学校の夏季休業は8月1日から23日までとし、8月24日から2学期を開始をしているところです。

今年の夏も高温が続き、子どもたちの熱中症が心配されたところでございますけれども、幸いなことに昨年度までに全校の普通教室にエアコンの整備が完了していたことから、屋内での学習活動には大きな支障は出ておりません。

新学期開始後、授業中に体調不良を訴えた事例が数件報告をされておりますけれども、いずれも、水分を取らせ、休憩をさせれば回復をしており、重篤な事案とはなっておりません。

しかし、少々涼しくなってきたとはいえ、まだしばらくは朝夕の登下校時や校外での活動は熱中症の危険性が高く、教職員の十分な指導と適切な管理、観察が求められているところでございます。

児童生徒への指導と致しましては、

授業間、体育の授業や長休みの前後、掃除後など、1日の学校活動の中での定期的な水分補給や屋外での帽子の着用等、日よけを行うこと。

水分については、水筒を持参させ、水、お茶のほかに、スポーツドリンクも可としております。

塩分補給のタブレットの摂取を勧めるなどを行っているほか、登校時、養護教諭や学級担任が体温や睡眠等の児童の体調を確認をすること。

校外活動時には、活動時間の長短にかかわらず必ず水筒を持参させること。

校外での活動を制限をすること。

体育などでは、活動以外は日陰で指導すること、などの対応を行っております。

また、保護者に対しましては、基本的な生活習慣を整えるための生活点検の定期的な実施。学校便りや保健便りを通じて学校の取組をお知らせし、家庭の協力を仰ぐこととしております。

さらに校内での工夫としては、教室内に、温度、湿度が同時表示される時計を設置をして、目で室温等を確認ができること。養護教諭が熱中症指数を測り、危険度をチェックをして、屋外での体育や遊び等の中止の判断をするなど、可能な範囲で工夫をしながら、学校運営を行っているところであります。

学校では教職員一丸となって、熱中症対策と併せ新型コロナウイルス感染症対策を行っておりますけれども、どちらにおいても最も重要なことは、児童生徒自身が規則正しい生活とバランスの取れた食事をした上で、登校するという点であろうかと思っております。

先に説明をした体調不良を訴えた児童生徒は、いずれも就寝時間が遅く、睡眠不足の可能性が高いということが報告をされております。ぜひ保護者の皆さんには、生活リズムを整え、早寝、早起き、朝ごはんを守ることが、子どもたちの熱中症予防、感染症予防の基礎基本であることをご理解いただき、各ご家庭での対応をしっかりとお願いをしたいと思っております。

議長（小松孝年君）

山崎君。

4番（山崎正男君）

学校での現場では、それぞれかなり注意をされているように聞きました。

この熱中症については、今コロナ対策でマスクもやっておりますけれども、熱中症だけ見ると、できるだけ構わない場所ではマスクを外してやりなさいというようなことも書いております。今後とも、臨機応変な対応を間違いのないようお願いしたいし。

それから保健指導。保健師の役割も大きいと思います。だから、それは学校であれ、学校から帰った後であれ、保護者の方にもそういう、熱中症対策についてはこうですよということを理解していただくような連携も取っていただきたいと思いますが。

いま一度、考え方をお願いします。

議長（小松孝年君）

教育長。

教育長（畦地和也君）

今お話のありましたマスクについてですけれども、文科省の方から衛生管理マニュアル、まあガイドラインですけれども学校の新しい生活様式ということで、これまで改訂が4版重ねられましたけれども、それによって我々対応しております。

当初は、常時マスクを着用することが望ましいとされておりましたけれども、改訂後は、身体的距離が十分取れない場合には着用すべきということになっております。

さらに、今回のこの熱中症などにつきましては、熱中症などの健康被害、マスクを付けることによる健康被害の恐れがあるため、気温、湿度や暑さ指数が高い日にはマスクを外すよう、むしろ児童生徒に指導をしないということになっております。

特に、自分で判断が難しい低学年の子どもたちには積極的に声を掛けるということになっておりまして、まさしく今議員がおっしゃいましたように、状況に応じて適宜、適切な指導していくということが非常に重要であろうと思っておりますし、このようにやはりコロナ対策については分からないところが大変多くて、最新の知見というものがずっと変わってきておりますので、そういう新しい知見を学校を通じて保護者の皆さんにも周知をしていただき、子どもたちの健康被害が起きないように十分対応してもらいたいと思っ

ております。

議長（小松孝年君）

山崎君。

4 番（山崎正男君）

今年は学校の中でも水泳、プールの利用はなかったがでしょうかね。

コロナ対策等の絡みもあってプール利用も控えているんじゃないかなと思いますけれど、このプールもですね、プールサイド、かなりコンクリで暑い。ここでもかなりのそういう事例が出てくるようです。熱中症については。

来年になるのか分かりませんが、プールとか、それから屋外の中学校なんかのクラブ活動。こういう状況のときに、できるだけそういう配慮をですね、生徒とかその監督される先生に伝えていただきたいと思います。

このプールとかクラブ活動、こういうものについては今後、どういう注意を払っていきますか。

議長（小松孝年君）

教育長。

教育長（畦地和也君）

まず、プールについてですけれども。本年度、水泳指導、プールにつきましては実施をしております。それは、文科省から発出をされております注意事項に従って実施をしていると。

ただし、例年と比べるとかなり回数は少なくなっておりますし、それからの8月の初旬に例年行っております記録会。小学生の水泳の記録会、本年度は中止を致しました。

それからクラブ活動につきましても、これも日々の学校生活の延長と対応については基本的には同じということでありまして、それから数年前から部活動についてはガイドラインを設けて、1日の活動時間を2時間以内ということに制限をしております。そういうものをしっかり守った上で、決められた感染症対策を十分取って、特に運動クラブにつきましては、密接をするような競技については避ける。あるいは、バスケットボールのような屋内の競技については、ドア、窓を開けてやるというようなことを徹底をしているというふうに思っております。

議長（小松孝年君）

山崎君。

4 番（山崎正男君）

それでは、次に移ります。

2 番目の質問でございますが、町長不在の中の対応についてということでございます。これも8月の19日以降、もう早1カ月近くになるかとしておりますけれど、これもちょっと時期を失っているかどうか分かりませんが。

先だっけのその報道でですね、黒潮町に町長辞職の激震が走り、町民はもちろん町の職員も動揺していると思いますが、我々の生活を一生懸命に守り対応してきたトップが不在となった今、副町長が行政をしっかりと継続することが大事だと思います。

本年度予算での業務や事業の進捗（しんちよく）は待ったなしであると思うが、各課題について真摯（しんし）に努めていただきたい。

それと、選挙で新しく町長ができるまでの、副町長としての指揮監督と、町民が冷静であるように町民に対してのコメントはないのかどうか、お聞き致します。

今、我々の町は、私自身もそうですけれど、ここ何十日か頭の中でいろいろと悩みを持って考えておりますけれど、町民の皆さんもこの間、かなり緊張した悩みを持っていることと思います。

それで、まず1点目ですが、職員も同じでありまして、職員の動揺をどのように監督していくのか。もう既に指示はされてるかも分かりませんが、いま一度お聞きします。

議長（小松孝年君）

町長職務代理者。

町長職務代理者（副町長 松田春喜君）

それでは山崎議員のご質問の、町長不在の中での職員の指揮監督につきましてお答えを致します。

山崎議員の申しますとおり、事業の執行につきましては待ったなしでございます。

町長退職の臨時議会終了後の午後には、本庁、佐賀支所におきまして、係長以上の職員に対しまして、職務代理者としての訓示を行ったところでございます。

町長不在となりますが、住民サービスの低下を招くことのないよう、職員一丸となって町政を進めていかなくはなりません。職員の皆さんにおいては、日々の業務の積み重ねにおいて、信頼回復に全力で取り組んでいただきたいという内容でございます。

また、執行機関会議におきましても、管理職が職員とともに、町長不在の中でも日々の業務が滞ることのないように、訓示の内容について、再度確認し合ってもらいたい旨の周知をしたところでございます。

以上でございます。

議長（小松孝年君）

山崎君。

4番（山崎正男君）

職員が動揺しては仕事もできませんので、これからも新しく町長もできるまで、とにかく一生懸命やっていたきたいと思います。

それから2番目でございますが、町長不在中の町民への対応はということでございます。

私はこの問題を非常に重く受け止めております。副町長、今は職務代理者でございますが、この問題は、町長が潔く辞めました。辞職されたということでございますが、この辞職はもう町長、彼本来の、自分の信ずるところを進んだと思います。彼の今までの大きな功績、これを惜しまずに自らが身を引いた。これは大変、わが町にとっても大きな課題であります。

今、その彼のいなくなったこの黒潮町で、職務代理者は今後、自分の職責をどのように考えていくか。これは私、言葉は悪いですけど、大変重たいものがあると思います。できればですね、この質問の前にかつこういうことを言うのもどうかと思いますけれど、本当の責任はどこで果たすか。町民に対して信を問うというところが必要であろうと思いますので、このような言葉を投げ出しております。

まず、その町長不在中の町民への対応はということで、代理者にお聞きします。

議長（小松孝年君）

町長職務代理者。

町長職務代理者（副町長 松田春喜君）

それではご質問の、町長不在の中での町民への対応ということにつきましてお答えを致します。

先ほどもお答えをしまして、職員の日々の業務において丁寧な対応を行っていくことで、町民の皆さまの信頼回復に努めてまいりたいというふうに考えております。

また、新しい町長が決まるまでの間にも、町長選挙への対応、そして、9月定例議会、各種会合、行事

の調整などの行政運営とともに、何よりも緊急事態、この間ありました災害、そしてコロナの感染拡大防止と経済支援などの事業に対しまして住民サービスの低下がないように、管理職ならびに職員一丸となつて努めてまいります。

以上でございます。

議長（小松孝年君）

山崎君。

4番（山崎正男君）

町長不在となった今、新しく選挙も始まると思うがですけれど、この我々に、こんな急きよにですね、残された行政課題、これを今後どうしていくのか。これは何か、ほんとのところが見えないで終わってしまったような気がしますので、職務代理者のこれからのやはり重要な考え方、心意気、これが大事になるのかと思います。

今、単なる職務代理者として淡々と業務はするのは、それはそれで大事なことでありますけれど、この町の今まで培ってきた大きな課題、これの延伸。それをまた前向きに、自らが女房役であった副町長が、どのように捉えて頑張らなければならないか。こういう意気込みを、今、持っていたきたいわけです。多分、前町長も、ああいう辞職の形を取りましたので、町民の皆さまはいまだに、まだその大きな業績を惜しまれておられる方が多くおります。私も、そのようなことはよく分かります。

そんな中で、じゃあ、今までの長年やった経験を、それからその力量をですね、このまま終わらせてはいけない。そうしたときに、町長はああいう方ですので、多分なかなか自分の倫理観を曲げてまでやるのは難しいかなと思います。それから、そうすると、今、行政の職務代理としてトップにあります副町長が次の時代を背負う、これに一番近い方でございます。だから、私はぜひですねその気持ちの切り替えを、今の職務代理で淡々と仕事をするだけでなく、この議会が終わった後には自分の気力、考え方をもう一段上に置いて頑張っていたきたいと、このように私は思っております。

これは質問ではありませんけれど、大事な局面を町民の中で生かしていただきたい。信を問うていただきたい。同じ女房役として今まで頑張って、いろんなことを課題に対応しております。町の課題は大きい。防災対策もいまだ、まだ道半ば。高速道路も道半ば。佐賀までも早くつけてもらいたいという町民も多いです。そうすれば、これからのまた黒潮町の延伸にもつながってくると思います。なかなか、今までのように予算の編成も難しいかも分かりませんが、そこの先まで見込んで、自分のけじめをしっかりと持っていたきたいと思っております。

何かコメントがあれば、お願いします。

議長（小松孝年君）

町長職務代理者。

町長職務代理者（副町長 松田春喜君）

再質問にお答えを致します。

私、大西町長から指名を受けまして副町長に就任をしております。

本来なら、町長が退職を意向、示したときにですね、自分の方も辞表等を提出し、町長から先に辞めるという命令をいただくべきやったかなというふうに思っているぐらいでございます。町長の方からもですね、住民の方々、そして職員が混乱をしないようにということで町長からも依頼がありましたので、職務代理者として残るということに致しました。

そういうことで、新しい町長が決まるまで、先ほども申しましたけども職務代理者として管理職と、ま

た職員とともに、この職務を務めたいというふうに思っております。

また、空白の期間でございますので、前大西町長からは、私の方が引き継ぎを受けております。その地方創生の総合戦略的な課題等の引き継ぎということになっておりますので、それを新しい町長にきちんと引き継ぐのが役目というふうに思っております。

以上でございます。

議長（小松孝年君）

山崎君。

4番（山崎正男君）

私は、自分が議会議員として4年間一生懸命やろうということで、議員の務めを果たしております。

こういう状況で、あきらめをしたらいかん。我々議員もしっかりと、今までの行政を継続してですね、さらなる発展するような黒潮町にしたいという思いでございますので、ここ何日かよく考えていただいて、できるだけスムーズな町政の変換、変更時期を超えていく。こういうやり方が一番大切だろうと思っておりますので、ぜひこの大事な期間を無駄にしないように考えていただきたいと思っております。

これはですね、選挙というものがそこへ控えておりますけれど、選挙のときは皆、自由に立候補できるわけです。どういう方が出られるかも分からんし、新しく風を吹かせてくれる人が現れるかも分からん。でも、今まであったものをただ単に、ハイトップで動いていたこの黒潮町が緩やかな構造になるとですね、やっぱり町民にもある程度負担が掛かってくる可能性もありますので、ぜひ一考していただきたいと思っております。

それでは、3番に移ります。

選挙の条件と日程と任期を説明されたいということです。これから、もう既に新聞紙上で日程も決まっておるわけですが、なお確認のために総務課長、お願いします。

議長（小松孝年君）

総務課長。

総務課長（宮川茂俊君）

それでは山崎議員の一般質問の2のカッコの3、町長選挙の日程等につきましてお答えを致します。

ご質問の今回の黒潮町長選挙につきましては、黒潮町長から退職の申立てがあった旨につきまして、公職選挙法第111条の第1項第4号の規定による黒潮町議会議員からの通知を、黒潮町選挙管理委員会が令和2年8月19日に受けたため、同法第114条の規定に基づいて執行する一般選挙となります。

その選挙の期日につきましては、同法第34条第1項の規定により、事由の発生した日から50日以内と定められておりますので、選挙管理委員会で、ご存じのとおり令和2年9月29日告示、10月4日に選挙を執行することが決定されました。

また、ご質問の新町長の任期につきましては、令和2年10月4日から令和6年10月3日までの4年間となります。

以上でございます。

議長（小松孝年君）

山崎君。

4番（山崎正男君）

総務課長、今、残りの任期も言うてくれたかね。まだやね。

この日程と任期でございますけれど、もし前町長が立候補された場合は、任期はどういうふうになりま

それでは、議長のお許しをいただきましたので、早速でございますが始めさせていただきますと思います。

その前に、先だつての台風10号、ほんと恐ろしいぐらいのパワーと申しますか、力を持った台風でございまして、ほんと過ぎ去るまでは心配をしておりましたが、何とか、当町には大きな被害もなく済んだこと、ほんとにうれしく思っております。

ただ、それについては皆さん、執行部の皆さんはじめ町の職員の皆さま、ほんと泊まり込みの方もあつたかと思ひます。ほんとにご苦労さまでした。

今後まだまだですね、海水温の今の上昇を見ますと、年内また、というふうなこともあろうかと思ひますので、皆さま体調を整えですね、いろんな場面に対応の方、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは早速、一般質問の方に入らせていただきたいと思います。

今回私の方は質問事項を2つ構えさせていただいてまして、学校運営についてと、景気対策についてということでございますが、まず、1番の学校運営についてでございます。

この質問事項のちょっと文言というか、あれがちょっとこうかけ離れてるかなと自分、今では思つておるわけですが、コロナ対策というふうなことが本質であろうかと思ひますが、学校に関するコロナ対策というふうなことで質問の方を始めさせていただきます。

新型コロナウイルスの収束はいまだめどが立たず、町内全域の各方面の影響は計り知れません。

小中学校においては、年度始まりの休業、春の運動会中止や修学旅行の延期、夏休みの短縮など、例年とは異なつたさまざまな弊害が生じております。

そんな中、各学校におきましては、校長先生を先頭に教職員が一丸となり、いろいろな工夫をし、何とか1学期を終えですね、2学期を迎えております。

ただ、冬場のインフルエンザ流行を前にですね、これまでとは異なつた対策が必要と思われるわけでございます。その他事項とともに、以下について聞きたいと思ひます。

まず、カッコ1番ですが、今のところ当町でのコロナウイルス感染者は出ておりませんが、冬場を前にですね、インフルエンザ予防接種は各学校で行われるかについてお尋ね申し上げます。

この質問は、午前中の山崎議員との重複する部分があるかと思ひますので、再度の答弁にならうかとも思ひますけど。それと、本来であれば、これ健康福祉課の方での答弁を求めべきかとも思ひましたが、コロナウイルスの件です。しかしあえてですね、子どもさんを預かつておられるその小学校、中学校の管轄される教育委員会の方にですね、その教育委員会としての心構えであるとか姿勢をお伺ひしたいと思ひまして、この質問を致しました。

それとですね、今、冬場前になつておるわけですが、新型コロナウイルス禍では、よく言ひます37.5というその体温の目安と申しますかそれがあつて、各所への入所であつたり入場であつたりが規制されておるわけでございます。インフルエンザでも当然のこと、発熱の方起こり得ることございまして、それとインフルエンザとコロナとの判別というのは、なかなか体温だけではつかないわけございまして、ほんとこれまでとは違つた対応が求められるのではないかと、自分は思つております。

それで、インフルエンザ予防接種によつてですね、そのコロナに対応するいいですか、その重症化、インフルエンザの重症化を抑えることによつて、これはコロナウイルス対策にもなり得るのではないかと思ひまして、このインフルエンザ予防接種は各学校で行われるかという質問をしております。

答弁を求めます。

議長（小松孝年君）

藤本教育次長。

教育次長（藤本浩之君）

それでは通告書に基づきまして、浅野議員のインフルエンザ予防接種についてお答えをさせていただきます。

議員ご指摘のとおり、この冬は、インフルエンザと新型コロナウイルスが同時に流行することが懸念されておりまして、特に子どもは発熱性疾患を発症しやすく、免疫低下を招き重症化しやすいという危険性を持っております。

そのため、子どもたちへのインフルエンザワクチンの接種について、推奨する必要があると思います。

しかしながら、インフルエンザ予防接種は予防接種法に基づきまして、定期接種ではなく任意接種であるため、接種するか否かは各ご家庭で判断することとされています。従いまして、学校での集団接種は、現在は実施しておりません。各個人が最寄りの医療機関で接種をしていますので、今後もその方針に変わりありません。

議長（小松孝年君）

浅野君。

5番（浅野修一君）

ありがとうございます。

そうですね、今まではこういったインフルエンザ予防接種、学校でみんなそろってというふうなことはないようなんですが。

自分思いますにですね、この新型コロナウイルスまでは、まではっていうか、これまではですね、インフルエンザのみを心配すればよかったというふうなことで、子どもたちにも、何て言うか、予防接種をすればすごい安心であるとか、そういった思いもあったとは思いますが、ただ、その新型コロナウイルスとインフルエンザとのその併合といいますか、同時の時期を迎える、流行時期を迎えるわけでありまして、この部分、町としてもですね、その危機感を持った対応の方が必要かと自分は思います。

これ、強制はできないというのが今までの町の方針だったと思いますけど、子どもたちの命を守るという面からすればですね、町として、その子どもたちに受けていただく。まして、できれば町費を充てていただく、というふうな考えも持つべきではないかと思えます。

何分初めての全世界的な流行で、初めてのことでございますんで、何ともほんと先が見えないことばかりであれながですが、ぜひそういった方向性を持つべきかと思うのですが。

費用的な部分、自分もよう試算はしてないわけですが、そういった方向でですね、ぜひ取り組みの方、今からでも、ちょっともう遅いつていうか、部分があろうかと思いますが、そういった方向性を見いだせないものでしょうか。

議長（小松孝年君）

藤本教育次長。

教育次長（藤本浩之君）

それでは、浅野議員の再質問にお答えします。

インフルエンザ予防接種の費用的な助成ということができないかということのご質問だと思いますが、子どものインフルエンザワクチンの定期接種化につきましては、国の方でも検討を以前されておりまして、その結果、平成17年3月に、予防接種に関する検討会中間報告書が出されておりまして、それによりまして、現行の方法によって、子どもに接種した場合の有効性には限界があり、希望する場合には、任意の接

種として接種が行われるのが適当であるという結論が出されております。

黒潮町教育委員会が、任意接種である予防接種に対しまして無償化とか助成を行うことと致しましては、町教育委員会がその予防接種を積極的に勧奨することになりますので、助成開始に当たりましては、医師や専門家などのいろいろ交えながら、十分な検討が必要であるというふうに考えております。

予防接種は、単純に子ども世帯への経済的な補助ということ以上にさまざまな問題がございますので、公費で負担して勧奨していくためには、それぞれの問題につきまして、実施すべき定期接種に位置付けられるかどうかということにつきまして、国の動向とかを注視しながら検討してまいらなければならないというふうに考えております。

以上です。

議長（小松孝年君）

浅野君。

5番（浅野修一君）

一時は国の方も、今言っていたように平成17年3月ですかね、せっかくそのときにそういった意見とか、が出て検討されたようなので、その時分からやっておくべきことではなかったかと、自分としては思っております。

それとですね、今、藤本次長の方が、医師の方との意見交換といいますか、意見をお聞きして、今後取り組みとか検討したいというふうなことです。自分、かかりつけの医師の方からですね、医師の方にも、そういった問い合わせをしたことがありまして、できればというふうな前置きとか、もあつたわけですが、小学校低学年以下の子どもさんにはすべきであつて、それも、2回することが最適といひますか必要だというふうなことを聞いたことがありまして。そういった意味も含みましてね、今回のこの質問にもなつたわけですが。

そういったですね、専門家いひますかお医者さんの言葉もありましたもので、ぜひですね、今回、学校運営というふうなふうな質問の仕方さしていただいておりますんで、保育所までは自分の方、問い合わせの方は質問の方は広げてませんが、今言う、お医者さんの言うに、小学校低学年以下の方には2回のインフルエンザ予防接種をすることが有効であるというふうなお話を伺つたこともありますので、ぜひともですね、その先ほど次長の方が言っていたように、お医者様であるとか専門の方と密に検討していただいて、できれば早期のインフルエンザ接種というふうなことを、学校、保育所でやっていたらと思ひますので、よろしくお願ひします。

ほんと、コロナとの戦いもあり、インフルエンザとの戦いもあるわけですので、今回はほんとですね、今までとは全く違う戦いになろうかと思ひます。ぜひともその点は重く受け止めていただいて、今後の検討課題としていただくよう、よろしくお願ひします。

それでは、これでカッコ1の質問の方は終わりたいと思ひます。

続きまして、カッコ2と致しまして、町として今後どのようなコロナ対策が必要と考へ、また、どんな整備を進めるか、でございます。

ここに町としてというふうな質問さしていただいておりますが、当初申し上げたように、健康福祉課ではなく小中学校担当の教育委員会としてですね、今後どのようなコロナ対策が必要と考へておるのか、どんな整備を進めるのか。

これについてご質問します。

議長（小松孝年君）

教育長。

教育長（畦地和也君）

それでは浅野議員の、学校における今後のコロナ対策につきましてのご質問にお答えをしたいと思います。

学校における新型コロナウイルス感染症対策に関しましては、文部科学省から、学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル、学校の新しい生活様式という通知に基づきまして、対応することとしております。

このマニュアルについては、9月3日の改訂版の第4版が最新のものになっておりまして、学校教育関係者にとっては、ここに記載をされている内容が最新の知見であると認識をしております。

それに基づきまして、学校長、保育所長には、以下の内容を通知をしているところでございます。

まず、引き続き、3つの密を避ける。マスクの着用。手洗いなどの感染症対策を講じ、教育活動を継続し、子どもの健やかな学びを保障する。そのために、以下の基本的な感染症対策を徹底をしていただきたい。

まず1つは、感染源を断つということでありまして。そのために、発熱等の風邪の症状がある場合には、自宅で休養をする。登校時、登所時の検温の実施、健康状態の把握。登校時、登所時に発熱等の症状が見られた場合は、児童生徒を安全に帰宅をさせる。

2つ目として、感染経路を断つということで、3つのない。これは、持ち込ませない、ウイルスを持ち込ませない、広めない、持ち帰らせない、ための手洗いの徹底。咳エチケット、清掃による清潔な空間を保つこと。

3つ目として、抵抗力を高める。そのために、十分な睡眠を取ること、適度な運動、バランスの取れた食事を取ること。

以上の感染症対策につきましては、児童生徒のみを対象としたものではなく、教職員も含めて全職員を対象とし、さらに、各ご家庭のご協力を求めるものでございます。

併せまして、学校生活においては、休み時間や登下校など、教職員の目が届かない所での、児童生徒の行動が大きな感染リスクとなり得ることから、児童生徒が感染症を正しく理解し、感染のリスクを自ら判断し、これを避ける行動を取ることができるよう、新型コロナウイルス感染症の予防に関する資料等を活用して、感染症対策に関する指導を行ってまいります。

この冬には、インフルエンザと新型コロナウイルス感染症が同時に流行する可能性が指摘をされておりますけれども、感染症対策については、そのどちらも大きく変わるものではないというふうに認識をしております。新型コロナウイルス感染症予防対策で示された予防対策を徹底することであると思っております。

次に、感染症対策のための物的な整備についてご説明を致します。

先ほど説明を致しました手洗いの徹底をするために、この春休み期間中に、手洗い設備が不十分でありました佐賀保育所、入野小学校、大方中学校に、手洗い設備の増設を致しました。

また、本年度第5号補正において、フェイスシールド、非接触型体温計、加湿空気清浄機、スポットエアコン等の配備、および、ハンドソープ、アルコール消毒液、ペーパータオル等の備蓄予算を認めていただいたところでございます。

また、一部の学校には水道栓をレバー式に変更することとしておりまして、他の学校についても、今後順次変更をしてまいりたいと考えております。

議長（小松孝年君）

浅野君。

5 番（浅野修一君）

ありがとうございます。

国の方もですね、教育長もおっしゃるように、よく聞く新しい生活様式、これにのっとった指導であったり、そういったことも受けて行っていただいているようです。

先ほどの3項目、感染源を断つであるとか感染経路の問題であるとか、そういったこと、ほんと大事な事であろうと思います。そういった何言いますか、いろいろな指導を受け、いろいろな方策をし、対策をし、そうすることを、子どもたちはもちろんのこと家庭にも教員の方にも、というふうな働き掛けは、ほんと基本中の基本であると思います。その継続がコロナ撲滅といえますか、コロナに打ち勝つことの手だてであろうと私も思ってます。

ただ、そのときにですね、こんなことあってはほしくないのですが、その危機管理という点ですね、要らんお世話かもしれんですがですけど危機管理という点では、もしもですね、小学校、中学校でコロナウイルス患者、生徒さん、もしくは教員の方、出たとしたらですね。これ、もしもっていうことを話せば切りがないわけで、申し訳ないのですが。そういった事態が起きたときにですね、どのような考えを持っておられるのか。ほんとは考えたくない事柄ではあるのですが。実際、当町では誰一人感染者は出ておりません。こういう考え持つこと自体、こういった場で自分が発言すること自体、町民の方に失礼なことかもしれませんが、もう今はですね、ほんと何事においても想定外ということが往々にしてある時代であるわけです。まさかというふうなことが、いろんな場面でいろんなことが起こっておりますんで、教育委員会としてですね、もしもの、こういった患者が出たときの対策を考えておるか、お持ちであれば、教えていただきたいと思います。

議長（小松孝年君）

教育長。

教育長（畦地和也君）

再質問にお答えを致します。

この新型コロナウイルス感染症というのは、いつ当町に感染者が出るかというのは分からないと思いますし、いつ出てもおかしくない状況にあるというふうに思っております。

そこで、教育委員会としましては、この新型コロナウイルス感染症が発生した場合の対応フローというのを、一番最初に作ったのは2月の26日でございます。その後、国からのいろんな通達やさまざまな新しい知見に基づいて、これまで8回の改訂を続けておまして、最新版は8月の18日付の更新になっておりますけれども、全てこの対応フロー図に基づいて、保育所ないしは小中学校で、児童生徒ないしは教職員に感染症患者が発生した場合については対応するというようにしております。

少しその対応フローのポイントだけご説明をさせていただきますと、そういう感染症患者が発生した場合には、仮に平日の日中でありますと、保育教育活動は直ちに停止をします。それから、もし仮に来客等がありましたら、速やかに退出をしていただく。その後、対策チームを設置をして、臨時の職員会を通して、保健所等の指示を仰ぎながらですけれども、登校、登所、出勤停止等を当該の職員に命じ、他の児童生徒について、どのように対応するかなどについても協議をするということになります。

そして、多分その臨時休校とか休園が発生すると思いますけれども、その期間についても、保健所の指導によって期間を定め、消毒をし、ある一定の期間をもって再開をするということになっております。

そのほかの、濃厚接触者の自宅待機等については、国から示されたその日数に基づいてお願いをすると

ということになりますし、一方では、例えば児童生徒への説明とか、保護者への説明とか、それから外部からの問い合わせに対する対応とか、いろんなさまざまなことが想定をされますけれども、一応この対応フロー図の中に誰がどのような対応をするのか、具体的な個人名も入れて、対応マニュアルとして定めているところでもあります。

これに従って、今のところは対応をするということになってございます。

以上でございます。

議長（小松孝年君）

浅野君。

5 番（浅野修一君）

ありがとうございます。

少し安心を致しましたが、対応フロー図ですかね、それもいまだに8回も改訂。まあ、いろいろコロナに対する対応策というか、それがどンドンどンドン、当初からいきますか1月、2月からどンドンどンドン変貌して、対応も変わってきておりますので、そのときそのときに適応をしていかなくは対抗できないと思いますんで、今後もですね、いろんなその見直しというか、そういったことも必要になってこようかと思えます。

国は国で、全体的ないうか、大まかなといいますか、対抗的なもんを考えてきてくれると思いますが、黒潮町では黒潮町のやり方ではないですが、この適した方法であったり、そういったこともね、出てこようかと思えますんで、そのへん執行部なり、教育委員会を主とした学校教育関係者としてですね、執行部も一緒になってその点よくよくもんでいただいて、対応の方をお願いしたいと思えます。

それで、先ほど、仮に保育所でウイルス患者が発生すれば停止をするというふうなお話でしたが、これは園ごと、もうその分かった時点で園ごと閉園に即するというふうなことですか。

それともう一つ、個人名というふうなことがありましたけども、その個人名を公にするという意味ですか。先ほどちらっと個人名を発表みたいなこと言ってましたけど、それはちょっとないかなとは思いますが。

その2点、ちょっとお願いします。

議長（小松孝年君）

教育長。

教育長（畦地和也君）

まず、個人名というのは、このフローの中にうちの職員の名前を、この部分は誰それが担当するんです、今の配置職員の中で、この部分は、まあ要は、両次長の、どっちの次長がここは対応するかということ、具体的な氏名を記載していると、そういう意味でございまして。決して児童生徒等の名前を個人名を記載するという、そういうことではございませんので、誤解のないようお願いしておきたいと思えます。

それから、保育所、学校で感染者が出た場合は、少なくとも当該の保育所ないしは学校については、休園措置を取らせていただきます。そのほかの学校については、その時点での周囲の感染状況等を勘案をして、保健所の指示を仰ぎながら、感染者の出ない所まで広げるのか広げないかについては、そのときの判断とさせていただきます。

議長（小松孝年君）

浅野君。

5 番（浅野修一君）

ありがとうございます。

僕もさつき勘違いで良かったのですが、個人名というふうなことがあったんで。担当者名ということで、安心はしました。

そういう意味では、一つの園とか学校で患者が発生するがは、よく聞くそのクラスターですね、そういうことも起きかねんこととして。そこから、大規模な感染拡大というふうなこともなりかねませんので、そういった判断いいますか、そういった園の所長はじめ職員の方、あと、学校校長をはじめ教員、職員の方、そちらの方にいま一度ですね、徹底いいますか、素早い反応であったり、いつも注視をしておくというふうな指導徹底をですね、ぜひお願いしたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

それでは、これでカッコ2の質問を終わりたいと思っております。

続きまして、カッコ3と致しまして、今年の夏は特に猛暑のように感じたが、昨年度より整備したエアコンにより、夏場での授業では大変助かったとの声をお聞きしました。

特別室へのエアコン整備がされていないと思うのですが、今後も温暖化はますます進んでいくことが予想されております。各学校への整備計画はあるかについて、お伺いしたいと思います。

まあですね、自分だけやない、ほんとに今年は、暑かったです。ほんと、何て言うか今までにない、こんなに夏は暑いかっていうふうなぐらい、とにかく暑い日が続きました。自分も、エアコン毎日つけっ放しだったもので、何かこう体力が低下したっていうか奪われたというか、そんなような状態にありますが。それで、いつもエアコンつけちようわけですが、エアコンの部屋から出たときにはもう、ほんとに外へ出るのもぐらぐらくるような、ほんと暑さだったと思います。自分だけじゃない、皆さんもそうだったとは思いますが。そのくらい、今年の夏は異常でありました。ただ、今後もこの異常温暖化は激しさを増して続いていくと思われまます。まだまだ温暖化、進むんじゃないかと思っております。

その温暖化に対する対策はですね、ほんと急務だと思っております。この間にもありますように、温暖化から身を守るにはエアコンという、その現代の文明の利器といえますか、そういったこともほんと、身を守る武器になっておろうかと思っておりますので、そのことについてですね、温暖化に対する各学校への整備計画、特別室へのエアコン整備の整備計画はあるかについてお聞き致します。

議長（小松孝年君）

藤本教育次長。

教育次長（藤本浩之君）

それでは浅野議員の、特別教室へのエアコン整備計画のご質問について、お答えをさせていただきます。

まず最初に、町内の小中学校の特別教室へのエアコンの設置状況につきまして、お答えをさせていただきます。

図書室、音楽室、理科室、家庭科室などの特別教室へのエアコンの設置状況につきましては、保健室と図書室、そしてパソコン教室は、全ての学校にエアコンを設置をしております。それから、音楽室へは3校設置をしております。家庭科室は2校設置をしております。理科室は1校でございます。そのほか、ランチルームとか多目的室などの設置をしておりますが、全ての特別教室の設置率につきましては、71室中42室の59パーセントでございます。

議員ご指摘のとおり、夏場の気温の上昇が著しく、新型コロナウイルスの感染防止対策の換気対策と致しましても、普通教室だけではなく特別教室においても設置する必要性は感じておりますが、費用が多額に要するというご事情でございますので、国の学校施設環境改善交付金事業を活用して、空調設備だけの事業を単発で行うのではなくて、ほかの改善事業と複合的に実施することによりまして、合理的で効果的な学

校施設の整備を実施したいと考えております。

従いまして、空調設備を含めた具体的な整備計画につきましては、現在、各施設の長寿命化計画を作成中でございまして、併せて検討を進めてまいりたいと思っております。

以上でございます。

議長（小松孝年君）

浅野君。

5 番（浅野修一君）

ありがとうございます。

そうですね、71 分の 42 だったかね、59 パーセント、まあ 60 パーセント近いエアコン設備はできているようなのですが。

気になったいいますか、音楽室で 3 室、家庭科室で 2 室、理科室で 1 室ですか。というふうなことで、この数字から見てもですね、小学校 8 校、中学校 2 校ですかね、町内にあるわけですし、それから見ますとですね、ちょっとまだまだかなというふうな感じを持ちます。

先ほど来申し上げますように、とにかく今のこの温暖化ですよ、それについてはもうほんと、去年、おとしあたりともまた全然違う、特に今年は暑かったと思います。何て言うかね、焼けるようないうか、そんなこう太陽の日差しやったと思いますんで。

これ、まだまだですね、繰り返しになります。先ほども申し上げましたけど、もっともっとう気温上昇も懸念されますんで。要は、予算的なことがあって大変な部分も分かるがですが、安心というより安全な授業っていうふうに考えた方が良からうかと思えます。ほんとと安心よりもですね、今、安全を考えんといかんぐらいの気候変動が起こってますんで。そういう意味では、次長先ほど言った、その長寿命化の方、ずっとそれこそすごい数の長寿命化に対応せんといかんと思えます。その部分を手分けしたりいろんな、早期の解決策ってのももぜひ模索しながらやっていただきたいがですが。

一つお聞きしますけど、この長寿命化っていうことで国の対応していただいて、各学校の特別室の方にエアコン設置の方、目標であったり、委員会としての見積もりというか、大体このくらいにはいけるんじゃないかみたいなどころありましたら、お聞かせ願えますか。

議長（小松孝年君）

藤本教育次長。

教育次長（藤本浩之君）

それでは、浅野議員の再質問にお答え致します。

いつごろをめどに、特別教室全てにエアコンが整備されるだろうかというご質問でしたでしょうか。

今、長寿命化計画の方を策定しております、その中で、例えば学校施設のほかの、もっと緊急性を要する、直さなければいけない所の部分を優先したり、また、そういうものとの合併して複合的にやったりという形の部分で今検討しておりますので、全ての学校において特別教室にエアコンがいつになるのかということは、現時点では申すことができません。

ただ、学校現場におきましては、どうしても急を要するという所の部分がありまして、そういう所につきましては、例えば、病弱な生徒さんがおられる所につきましてはですね、個別に、特別教室にもエアコンを設置を致しております。

そういう形で、緊急性を要するものから順次進めてまいりたいというふうと考えております。

以上でございます。

議長（小松孝年君）

浅野君。

5 番（浅野修一君）

ありがとうございます。

ほんと、今言っていただいた、病弱であるとかそういった方についてはですね、予算とか何とかいう、そういう問題以外でございますので、ぜひともですね素早い対応の方を、ぜひお願いしたいと思います。

ところで、次長の資料とかあれ持っておられるかどうか分かんがですけど、エアコンって学校に、特別室に付けるエアコン代って幾らぐらいするんですか。

議長（小松孝年君）

藤本教育次長。

教育次長（藤本浩之君）

エアコンの費用について、概算の部分をお答えさせていただきます。

昨年度実施しました各学校への普通教室へのエアコンの実施につきましては、大体学校の一つの教室が75平方メートルぐらいありますので、そこを冷やすエアコンというのは、結構大きなものでなければなりません。それで、1教室当たり行うのに約150万円ほど要ります。

それで、それによりまして、大体ざっくり試算を致しましたところ、あと29教室ございますので、4,300万円から5,000万円くらい、その部分が必要な経費ということになります。

以上でございます。

議長（小松孝年君）

浅野君。

5 番（浅野修一君）

そうですね、1台150万ですか。なかなか高価というか、高いもんですね。まあ、すぐにやれいうても、これはちょっと無理ではあろうかと思いますが、国の方もですね、補助であったり、いいものがあれば即座に取り掛かってもらって、ぜひ対応の方お願いしたいと思います。

ほんとこの今朝の山崎議員の質問でもあったように、熱中症であるとか、そういったところもほんと心配にもなりますので、そんな心配も排除できるようなことにしていただきたいと思います。

それと、以前であればエアコンっていうのはぜいたくもんやんみたいな考えというか、そんな話をよく聞きましたけど、もう今となってはそうではありませんので、ぜひですね、子どもたちのためにも、費用対効果いいですか子どもを守る上では、高いようですが安いもんやないかとも思ったりしますんで、早期の対応、できる限りご努力、ご尽力をいただきたいと思いますんで、よろしく願います。

では、これで1番の学校経営については終わりたいと思います。

続きまして、2番の景気対策についてであります。

当町として、即効性のある対策が見いだせないのが現状であろうと思うが、これまでの経緯と今後について聞きたいと思います。

カッコ1と致しまして、一人10万円の補助金は全ての方に交付できたか、であります。

これ、補助金じゃなくて給付金ですね。給付金でええと思います。訂正致します。

改めまして、令和2年4月20日に、その新型コロナウイルス感染症緊急経済対策が閣議決定されてですね、感染拡大にしつつも家計への支援を行うため、一人10万円の特別定額給付金が創設されたわけですが、9月4日現在、ほんとと直近ですが、12億円余りの給付が完了しているようであります。

当町ではですね、これ、確か8月18日ぐらいに申請期限っていうのは迎えておるんじゃないかと思いますが、現状はどのようになっておるのか。

答弁をお願いします。

議長（小松孝年君）

地域住民課長。

地域住民課長（青木浩明君）

それでは、特別定額給付金の交付状況についてお答えをさせていただきます。

黒潮町の特別定額給付金の給付対象者は、基準日であります本年4月27日現在で、5,490世帯、1万997名でありました。しかしながら諸事情により住民票を黒潮町に残したまま転居された方が1名発生致しましたので、世帯数は変わりませんが、対象者は1名少なくなって、1万996名が最終の数値となっております。

給付実績につきましては、対象者1万996名に対しまして1万986名の方に給付済みでありまして、金額は10億9,860万円、給付率は99.91パーセントであります。なお、申請方法は郵送とオンライン申請がありましたが、オンライン申請をされた方は39世帯、86名おられました。

給付率を県内の他の市町村と比較してみますと、給付率が99.9パーセントを超えている市町村は34市町村中12市町村であります。人口の少ない町村を除き、人口が1万人を超えている市町では5団体でありますので、本町は上位に食い込む数値となっております。

また、申請期間最終日の8月18日に申請された方に対しましても、先月の28日に振込を完了しておりますので、本町の特別定額給付金の支払い業務は全て完了しております。

議員ご質問の、全ての方に給付されたかという件につきましては、本町の未申請者、給付金を受け取ることができなかった方ですね。方は、10世帯、10名であります。その内訳はですね、基準日以降に死亡され、単身のお一人世帯であったために申請することができなかった方が5世帯5名、本人、または家族の意向で給付金を辞退された方が4世帯4名、住民票の住所に住んでおらず、居所不明により確認が取れなかった方が1世帯1名となっております。この1名の居所不明の方につきましては、ご兄弟の方が町内在住者でありましたので確認を取りましたが、20年以上もう連絡が取れていないということで、残念ながら本人に行き当たることができなかった方であります。

町と致しましては、去る6月議会で答弁しましたとおり、可能な限り全ての方に給付金が行き届くための対策を講じてまいりました。申請が一段落致しました6月下旬に、未申請の方に2回目の周知文書を発送致しました。

役場内部では、住民課や健康福祉課の包括支援センターと連携をして、未申請者の方の居所の有無や、生活実態の把握に努めました。また、社会福祉協議会やあったかふれあいセンターの職員の方々や、民生委員の皆さんには、実際に自宅に出向いていただいて申請のサポートをしていただいたり、施設等への入所情報の提供をしていただきました。さらに、外国人研修生の方につきましては雇い主の方に、居住実態の不明な方については区長さん等から情報提供をいただくなどして、多くの皆さんの協力があったからこそ、99.9パーセントを超える給付実績につながったものだと思っております。

残念ながら最後まで確認が取れなかった方が1名いますので、議員ご質問の全ての方というわけにはまいりませんでした。1万996分の1名であります。率にして、0.009パーセントであります。多くの皆さんの協力をいただいて、頑張った結果がこの数値につながったものだと思っておりますので、今回の給付金がコロナの影響を受けた方々の生活の一助になることを願っております。

以上でございます。

議長（小松孝年君）

浅野君。

5 番（浅野修一君）

ありがとうございました。

ほんと、課長、ありがとうございます。課の方、皆さんにほんとお礼を言っていただきたいと思います。

ほんとにですね、こういった給付については、先ほど課長もおっしゃったように所在の明確化であったり、いろんな家庭事情を持たれた方への対応もさまざまでありですね、ほんと大変だったことと思います。ほんとにご苦労さまでした。自分としては、ほんと 100 パーセントじゃないかと。1 名の方は残念でございますけど、ほんと 100 パーセントやっていたというふうに思っております。ほんとに、ご苦労さまでした。ありがとうございました。

それでは、この件につきましてはこれで終わりにさせていただきます。

続いて、カッコ2 と致しまして、各職種、各種企業等への今後の対策と課題について問うてありますが。

テレビ、新聞等での報道では、コロナの影響で家賃が払えず廃業したとか、どうであるとか、そういった暗いニュースの方が毎日のように流れておるわけでございますが、国の方は、感染症拡大により営業自粛とかによりまして、特に大きな影響を受けた事業者に対してですね、事業の継承を支え、再起の糧としていただくために、事業全般に広く使える持続化給付金を給付することと致しております。

当町においてもですね、厳しい状況は同じだと思います。コロナでお客さんが来ないであるとか、お客さん来ないのであれば、テイクアウトの方に切り替えて一生懸命頑張るであるとか、そういった苦慮されておられる方がたくさんおられます。

そこで、今後ですね、町としての対策、課題について聞きたいと思います。

議長（小松孝年君）

産業推進室長。

産業推進室長（門田政史君）

それでは浅野議員の、景気対策についてのご質問にお答え致します。

新型コロナウイルス感染症に伴う経済への影響につきましては、訪問による聞き取りやアンケート調査、また相談窓口業務を行う中で、状況把握に努めてまいりました。

これまでに実施した、または実施している主な経済対策事業と致しまして、商工業関連の部門では、県の融資制度等を活用した、事業者の経営的負担の軽減を図ることを目的とした、黒潮町中小企業者等経営支援事業利子補給金の拡充、新型コロナウイルス感染拡大防止のための休業要請に伴う経済支援交付金の実施、高知県が実施した高知県休業要請等協力金の町負担分、停滞している町内の経済状況を緊急に支援するとともに、地域における消費活動の喚起、下支えをすることを目的とした、黒潮町プレミアム付飲食券および商品券の販売などを行ってまいりました。

また、常時雇用している従業員が5人以上いる事業者の人件費の負担軽減を図ることを目的とした、黒潮町新型コロナウイルス感染症対策雇用維持特別支援給付金や、国の持続化給付金の給付要件に満たない事業者を支援するための町版の黒潮町持続化給付金などの施策も実施するところでございます。

観光部門で申し上げますと、スポーツツーリズムにおいては、感染拡大防止および早期収束を図るため、自粛要請が円滑に実行されることを目的とした感染拡大防止に係る経済支援交付金、およびスポーツツーリズム参加者の負担軽減を図るために、宿泊費等を助成するスポーツツーリズム誘客促進事業、また、一

般観光においては、観光客誘客促進事業として町内での宿泊や、体験観光者に対する地域商品券の配布、旅行会社の誘客促進を図るため、各事業者が旅行会社に対して支払う手数料の助成および旅行会社への手数料助成、ならびに利用者特典として、地域商品券の配布などがございます。

水産部門では、町内漁協に水揚げした町内漁業者に対し、当初の水揚げ促進対策として予算計上していた水揚げ金額に対する補助1パーセントに、さらに新型コロナウイルス感染症の影響による援助策として、同様の水揚げ金額に応じた1パーセントの補助を実施することとしております。

また、農業部門では、国の支援策であります高収益作物次期作支援金の取り組みを行っております。

また、町独自の事業として、収入保険の保険料の一部を補助する農業収入保険制度加入促進事業、および県の新型コロナウイルス感染症対策補助金を活用し、JAが整備を予定している、新型コロナウイルス感染症対策集出荷施設等整備事業の補助金予算を今議会に上程しているところでございます。

経済対策における施策は以上でございますが、これらの大部分は現在、進行している最中でございます。事業者支援および経済対策に対しましては、町として対応すべき事業の選択は、国、県の施策では対象外だが支援が求められる場合や、スピード感が必要な場合など、多角的な視点から検討を行い、国、県、町からの支援が重層的に切れ目なく展開されるよう検討してまいりました。

感染拡大の防止と、経済回復対策の両立は大変難しい判断を求められますが、今後とも、国、県の動向を注視し、各段階に応じた独自の経済対策の立案、具体的取り組みを展開していく必要があると考えております。

なお、現在も役場本庁と支所に経済対策相談窓口を設置し、職員による相談業務を行っておりますので、各種助成事業に関する相談をはじめ、事業者の課題解決の一助になっているものと考えております。

以上でございます。

議長（小松孝年君）

浅野君。

5番（浅野修一君）

ありがとうございます。

ほんとに、このコロナっていう部分ではですね、大変な経済に対して影響がものすごいものがあったと思います。そんな中ではですね、門田室長先頭に、あと農業振興課であるとか、海洋森林課であるとか、全ての課の方もですね、この対策にはほんと駆けずり回っていただいて、尽力いただいたことと思います。ほんとにこの場をお借りして、お礼申し上げたいと思います。

今も門田室長の方が言っていたように、国、県とは別物で検討するであるとか、そういった町独自のですね、町民の方、経営者の方に対する思いであったり支援だったり、そういったことをですね、ほんと、抜け目のないようにやっていたらいいようなので、今後ともよろしくお願い致したいと思っております。

先ほど言っていたように、その国とか県とかのその動向っていう部分も、補助金であったり、いろんな新たなものも出てこようかと思っておりますので、そのへんにも目を光らしていただいて、そういうものが出ればすぐに対応していただいて、住民の方、経営者の方に力添えの方をぜひお願いしたいと思っております。

ところでですね、それともう一個。今の説明の中で、相談窓口を設けておられるということなんですけど、結構ですね、何のいうか、どのような窓口でも同じながですけど、窓口は開設しても、町民の方がそのことを知らないっていうことが多々あるかと思っておりますので、その窓口がありますというふうなこと。この経済対策に限らずですがね、そういう意味では、窓口のこんなものがあるんだよっていうことをぜひで

すね、各課の課長さん、室長さんには、宣伝っていう部分で広めていただければと思いますんで、その点もよろしくお願ひしたいと思います。

それで、分かる範囲でええがですけど、全般のあれは分かりにくいかと思いますが、室長の分かる範囲で、現在の給付のその件数であるとか金額であるとか、分かるところがございましたらちょっとお聞かせ願えますか。

議長（小松孝年君）

産業推進室長。

産業推進室長（門田政史君）

それでは、浅野議員の再質問にお答えを致します。

それではまず、既に完了しております実績ということがつかめておりますので、そこを報告させていただきたいと思います。

完了している事業で申し上げますと、感染拡大防止のための休業要請に伴う経済支援交付金でございますけれども、これが94の事業所に対して3,024万円の交付を行っております。

また、スポーツツーリズムにおける感染拡大防止に係る経済支援交付金でございますけれども、これが8事業者に対して597万6,000円。

また、県の事業の負担ですけれども、高知県休業要請等協力金、これらの黒潮町の負担分が、32件で320万円でございます。

以上でございます。

議長（小松孝年君）

浅野君。

5番（浅野修一君）

ありがとうございます。

えらい細かいところまでお聞きして申し訳なかったです。

ほんと、多くの企業であつたり団体に支援の方をしていただいて、ほんとにありがとうございます。

その中でですね、あまり聞きたくないですけど、町内、倒産というふうなこと、倒産件数的なものはございませんですかね。

議長（小松孝年君）

海洋森林課長。

海洋森林課長（土居雄人君）

再質問にお答えします。

今のところ、町内の中で倒産という情報を海洋森林課、商工の方でも受けておりません。

以上です。

議長（小松孝年君）

浅野君。

5番（浅野修一君）

ありがとうございます。

ほんと安心しました。これもですね、各課の頑張りがあつてのことと思っております。

今後とも引き続いてですね、ぜひ支援の方、よろしくお願ひしたいと思います。

この持続化給付金等のその給付についてもですね、先ほどの特別定額給付金なんかと同じようにですね、

大変な作業だったであろうと思っております。ほんとうにご苦労さまでございました。

各課、各室に帰られてもですね、先ほども申し上げましたが、職員の方の労もねぎらっていただければと思います。引き続き今後ともよろしく願い申し上げます、私の質問を終わります。

ありがとうございました。

議長（小松孝年君）

これで、浅野修一君の一般質問を終わります。

この際、14時55分まで休憩致します。

休 憩 14時 36分

再 開 14時 55分

議長（小松孝年君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次の質問者、吉尾昌樹君。

6番（吉尾昌樹君）

それでは、通告書に基づきまして質問させていただきます。

まず、山崎議員や浅野議員からも同じような質問もありましたが、そのところはよろしく願います。

まず、1問目ですが、くじらる一むの利用状況について。

4月からくじらる一むが新しくなり、また、少年補導育成センター改め子どもサポートセンターと同じ建物で、1階と2階で活動しているようです。

現在のくじらる一むの利用状況、また、地域とのつながりがあれば、願います。

議長（小松孝年君）

橋田教育次長。

教育次長（橋田麻紀君）

吉尾議員の、くじらる一むの利用状況に関するご質問にお答え致します。

くじらる一むは、登校したくても登校できない状態にある児童生徒の社会的自立や、学校復帰を図ることを目的として設置しています。

昨年度までは、保護者からの要望により随時開設をしていましたが、今年度より、浜松教育集会所の2階で常設とし、輪番制による4名の教育相談員を中心として、スクールソーシャルワーカー、教育研究所研究員等が指導に当たっています。

現在は4名の児童生徒が入級しており、定期的に2、3名の児童生徒が通級しています。

くじらる一むでの活動は、学習活動や体験活動など、児童生徒一人一人に合った活動や、児童生徒同士がかかわり合える活動を通して、自己肯定感や仲間意識を高めることを狙いとしています。

夏には、児童館、町民館が共同して行っている夕涼み会への参加も予定していましたが、新型コロナウイルス感染防止対策のため中止となりました。

また、月に1回は教育研究所内の定例会を行い、児童生徒の状況の情報共有や、今後の指導支援方法について協議を行っています。

1階にある子どもサポートセンターの職員には、定例会での情報共有を行い、児童生徒への見守りや声掛け等、日常的なかかわりをお願いしています。

議長（小松孝年君）

吉尾君。

6 番 (吉尾昌樹君)

ありがとうございました。

まだまだ来てない子どもたちもいると思いますが、徐々にくじらる一むの方に出てこれるような体制を取っていただければと思っております。

それと、私も1回くじらる一むの方に見学に行かしてもらいましたが、すごく1階も2階も広くて、子どもたちが行きやすい所かなと思うところはありませんでしたが、1つだけ気になるところが、いろんな壁や柱にひびがありまして。ひょっとこれ、耐震改修はしているのかなと思ったところなんです、実際していますでしょうか。

お聞きします。

議長 (小松孝年君)

藤本教育次長。

教育次長 (藤本浩之君)

耐震改修の件でございますが、この建物につきましては耐震の改修の対象になっておりませんので、改修作業はしておりません。

以上でございます。

議長 (小松孝年君)

吉尾君。

6 番 (吉尾昌樹君)

先ほども言ったように子どもたちもやっぱり通ってきますんで、できたらできるだけ危なくないような、大きい改修じゃなくても、何かしていただければ助かります。

そこらへんはどうでしょう。これからもやる予定はありませんでしょうか。

議長 (小松孝年君)

藤本教育次長。

教育次長 (藤本浩之君)

再質問にお答え致します。

この浜松教育集会所につきましても、施設の長寿命化計画の方と一緒に考えておりますので、その中で、現状を把握した上でですね、改善が必要があるとなればですね、年次計画をもって改善をしたいと思っております。

以上でございます。

議長 (小松孝年君)

吉尾君。

6 番 (吉尾昌樹君)

ぜひ、今言われたように改修の方、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは1問目を終わらして、2問目にいきたいと思ひます。

まず、児童生徒や教職員へのコロナ関係での対応についてですが、

コロナ対策で町内の学校、保育園、小学校、中学校も、いろいろな対策や対応をしていると思ひます。

他県では、コロナ対策で、小学校の児童が親と相談の上、ある程度の欠席をし、それをその学校の学校長が認めれば欠席にもならない、というようなこともテレビでやっておりました。

黒潮町もいつコロナが出てくるかも分かりませんが、黒潮町の教育委員会としては、いろいろと先ほども聞かせていただきましたが、いろんな対策をしていると思いますが、そういう子どもが出た場合の対応とかいうのは何かありますでしょうか。

議長（小松孝年君）

教育長。

教育長（畦地和也君）

それでは吉尾議員の、児童生徒、教職員の感染症対策ということで、まず、通告書に基づいて準備したお答えを、先にご説明をさせていただきたいと思います。

これまでも申しましたように、学校、保育所における感染症対策につきましては、文科省の衛生管理マニュアル、それに基づいて行っているということでございます。

まず、児童生徒、教職員が共通して取り組む事項としては、自宅で、毎朝の検温、それから風邪症状等を確認をして、記録、報告をすることを徹底するという。それからマスクの着用、ハンカチ、手拭きタオルについては、各自が持参をして共有をしないということでもあります。

それから手洗いにつきましては、当町では、3 つのないという取り組みを保育所、学校にお願いしております。これは、保育所、学校にウイルスを持ち込ませない。保育所、学校内でウイルスを広めない。保育所、学校からウイルスを持ち帰らせないということを実践するために、手洗いを徹底するための一つの考え方ということであります。そのために、登校や登所前に自宅で、登校、登所時に校内、園内に入る前、あるいは教室に入る前に、トイレの使用後、給食の前後、掃除した後、屋内外を問わず活動後に教室に入る前、下校、降所前、これらの場面で手洗いを徹底して、同様のことを家庭でも行っていただきたいということを、保護者に周知を行っているところでございます。

そのほかの対策と致しましては、3 つの密を避けるということ。換気は、気候上可能な限り常時、可能であれば2方向の窓を開けて同時に行う。座席の配置については、児童生徒の席の間に可能な限り距離を確保し、対面とならないような形にするということ。場合によっては、学級を小グループに分けて、異なる教室や時間で指導を行う等の対応を工夫をすること。また、各教科においてですけれども、例えば音楽科における狭い空間や密閉状態での歌唱指導や身体の接触を伴う活動、また家庭科における調理などの実習、体育、保健体育における児童生徒が密集する運動や、児童生徒が近距離で組み合ったり接触したりする場面が多い運動、児童生徒が密集して長時間活動するグループ学習、運動会や文化祭、学習発表会など児童生徒が密集して長時間活動する学校行事、あるいは、他の都道府県等に移動する、校外学習や宿泊を伴う学校行事など、これらの各教科活動については、感染リスクが高いことから基本的に行わないということでもあります。部活動についても、この各教科の指導に準じて対策を講じております。

給食についてです。提供する際には、特に手洗いを徹底をします。また、配膳の過程での感染防止のため、可能な限り少ない人数で配膳を行う。食べる際には机を向かい合わせにしない。または、会話を控えるなどの飛沫を飛ばさないように工夫をするということ。

それから登下校については、登下校の際にもできるだけ密集にならないように指導をしていただく。スクールバスについては、間隔を空けて座る。降車後は速やかに手を洗う。顔をできるだけ触らない。触った場合は顔を洗うなどして、接触感染対策などの基本的対策を行うことを指導していただくこと。

その他、鼻をかんだティッシュペーパーなどは、教室のごみ箱に直接捨てずに、個人で小さなビニール袋にまとめて入れ、口を縛って捨てるなどについて。

以上のことにつきまして、学校長、保育所長に通知を行っているところであります。

以上のように、学校、保育所では最大限の対策を取りますけれども、文科省の調査によりますと、6月から8月の3カ月間、全国で新型コロナウイルスに感染した小中学生のうち、学校内で感染した小学生は2パーセント、中学生では7パーセントとなっております、子どもたちが感染するのは、そのほとんどが家庭内ということになっております。

従いまして、子どもたちへの感染を防ぐためには、まずご家庭で感染予防対策を徹底をしていただきたいということ。そして、基本的な生活習慣を整え、しっかりした睡眠とバランスの取れた食事、規則正しい生活を家族全員で送っていただいて、一人一人が免疫力を落とさないこと。そのことを重ねてお願い申し上げたいと思います。

それから、欠席の取り扱いについてご質問がありました。現在、当町の欠席の取り扱いについては、児童生徒が37度5分以上等の熱があつて風邪症状がある場合については登校を控えてもらうようお願いをしております。その際には、忌引き扱いとなります。ただし、現時点では、そういう症状がないにもかかわらず、保護者が不安だから登校させないという理由については、学校長が必要と認める場合については、通常の欠席ということになります。

以上でございます。

議長（小松孝年君）

吉尾君。

6番（吉尾昌樹君）

すみません、僕、聞き漏らしたかもちょっと分からんですが。

同じように教職員も、コロナや熱中症対策ですごい大変なことだと思います。それで、子ども以上に、今まで以上に仕事が増えて、これも他県ですが、辞めていく先生もいるということを知りました。

その点の方は、黒潮町ではどういう対策をしておりますか。

お聞きします。

議長（小松孝年君）

教育長。

教育長（畦地和也君）

再質問にお答えを致します。

コロナ対策が始まってから、各学校、各保育所には、先ほどもご説明しました、学校校内に入る前に検温の結果ですね、家庭で検温をしていただいた結果についてご報告をいただいた後に、校内、園内に入らせていただくようお願いをしています。

ですから、保育所によっては、玄関で職員が待機をして、保護者さんが子どもさんを連れてこられたときに具体的にその日の体温をお聞きして、記録をした後に、保育所内で受け取るということにしておりますので、これまで以上に職員にはご負担をお掛けをしているというのは我々も重々承知をしておりますけれども、そのことをもって特に負担が大きいという声は、直接は私の方には届いておりませんし、職員からもそういう声があるということも聞いておりません。

今、必要なときだからということで、一生懸命職員が頑張っているもんだというふうに思っております。

議長（小松孝年君）

吉尾君。

6番（吉尾昌樹君）

ありがとうございました。

これからいろいろあるかと思いますが、また、これ、医療崩壊じゃないですけど学校崩壊が起こらないように、いろいろ頑張ってくださいと思います。

それでは、3問目にいきたいと思います。

避難道や避難階段の管理や見直し、新設についてです。

これ、前回私が昨年の9月に質問したのと同じようになりますが、大きな地震が来れば、現在の避難階段や避難道は、ほとんど使えない、通行できないのではないかと心配する住民の声を多く聞くようになってきています。

国からの補助などで、各地域のいろいろな所に多く避難道や避難階段を造っていただいておりますが、逃げる個所が多くあるというのはいいことなのですが、なかなか全ての所に管理が行き届いておりません。草やつるの小枝のようなものなら何とかできますが、木が大きくなって避難階段をふさいだり、その木を切った後の処理などもあり、それぞれの地域で管理が難しくなっている所が多く出てきていると思います。

そういう点も含め、せっかく造っていただいた避難道や避難階段がいざというときに使えないでは、造った意味がありませんので、何か対処ができないものかお聞きします。

議長（小松孝年君）

情報防災課長。

情報防災課長（徳廣誠司君）

それでは吉尾議員の、避難道の管理、見直し、新設についてのご質問にお答えさせていただきます。

前回の答弁と重複する部分があるかと思いますが、ご了承いただければと思います。

避難道や避難階段の維持管理につきましては、破損や倒木などにより避難機能が果たせなくなるような場合には、町により修繕、伐採等を行っており、本年度も、これまで崩土除去等の工事を数件行っております。

今後も、避難道をはじめ避難施設の機能管理につきましては、これまで同様に町により行いますが、草刈り等日常の維持管理については、各地での対応をお願いすることとなります。

また、避難道周辺では大きな木が覆っている所も多数ありますが、管理での予防伐採については、現時点では困難です。

避難道につきましては、高台までの自然地形を利用して整備していることから、場所によってはこう配のきつい階段になっている所もあります。ですが、転落防止柵等の設置により、手すりとしての利用ができること等から、改修等の見直しは考えておりません。

避難路の新設につきましても、現状では計画をしておりません。

これまでも答弁してきましたように、避難路の計画路線を決定するに当たりましては、地区ごとに行ったワークショップなどでそれぞれの課題を抽出し反映させており、津波避難タワー、計画路線が整備された段階で、町内の避難困難地域に対する避難ルートについては確保されてるものと考えております。

計画外路線となる新たな避難道の設置につきましては、必要性、緊急性、代替性など、総合的に判断し、個別に検証、検討していく必要があると考えております。

以上でございます。

議長（小松孝年君）

吉尾君。

6番（吉尾昌樹君）

それこそ私もいろいろ回った中で、いろんな所にあるその避難階段とかで、通れんところがいっぱいできておりますし、なかなか個人では難しいかなという所もいっぱいありますので、そのへんもまた検討していただいて、できたら町の方で協力をしていただけるように。

それと、やっぱり最初慌てて造った避難道もたくさんありますけど、今になって改めて見直したときに、あ、ここよりもこっちが良かったにゃあいう、そういう避難道もありますので、できたらそこらへんも打ち合わせの上、また構わらったら新設の方でやっていただければと思っております。また、よろしく願います。

簡単ですが、これで質問を終わります。

議長（小松孝年君）

答弁、要らんですか。

6番（吉尾昌樹君）

いや、もうやってくれる方向でさっき言いよったけん。ありゃ、違いますかね。

そしたら、答弁をお願いします。

議長（小松孝年君）

情報防災課長。

情報防災課長（徳廣誠司君）

吉尾議員の再質問にお答え致します。

避難道に関しましては先ほど答弁したとおりで、全体的には各地区整備されてるものと考えております。ただ、先ほど言われたように、避難路に関して崩れる所があるんじゃないかという心配される住民の方がいるということも承知をしております。

ただ、避難路を整備したからといって、地震のときに確実にあるといった保証はございません。ですので、地区の中でも、できれば避難路に対して、自分たちの地区にはどういった避難路がある。もしこの避難路が崩れれば、この避難路、その避難路に対してはどれだけの時間があつたら避難できるのかといったことも検証をして、避難ルート多重化、これ避難路だけではありません。そこに行くまでの道も含めてですけども、そうしたこともぜひ検証していただいて、その中でも、どうしてもこれがないと避難ができないといった所。先ほど言いましたように、そこがどうしても必要という所がありましたら、それは検討してまいりますけども、これまでのように国、県の有利な補助がないという状況の中でありますと、先ほど言っている、全体的な町の施策、また、防災に関しても避難路以外の施策というのは多くありますので、そちらの対策等を勘案して考えていく必要があると考えております。

以上でございます。

議長（小松孝年君）

吉尾君。

6番（吉尾昌樹君）

その検討した結果、いろいろと、このままでは通れんだろうなという避難道がかなりあります。

それと、ここに造ってほしいなという避難階段もありますので、そのへんはまた検討していただいて、話し合いをしたいと思っておりますので、よろしく願います。

それではこれで、以上で質問を終わります。

議長（小松孝年君）

これで、吉尾昌樹君の一般質問を終わります。

お諮りします。

本日の会議はこれで延会したいと思います。

これにご異議ございませんか。

(異議なしの声あり)

異議なしと認めます。

従って、本日はこれで延会することに決定しました。

本日はこれで延会します。

延会時間 15時 18分